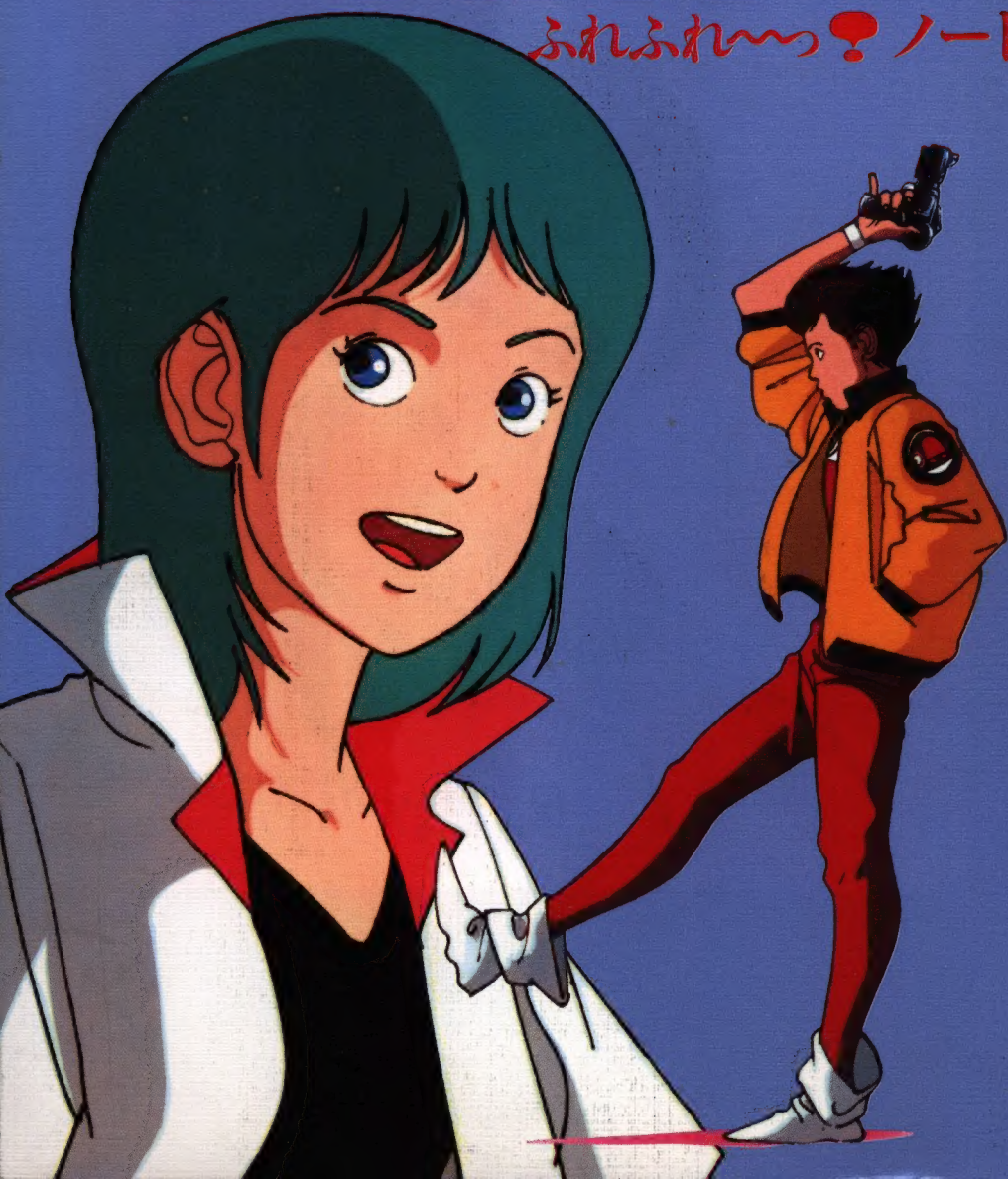
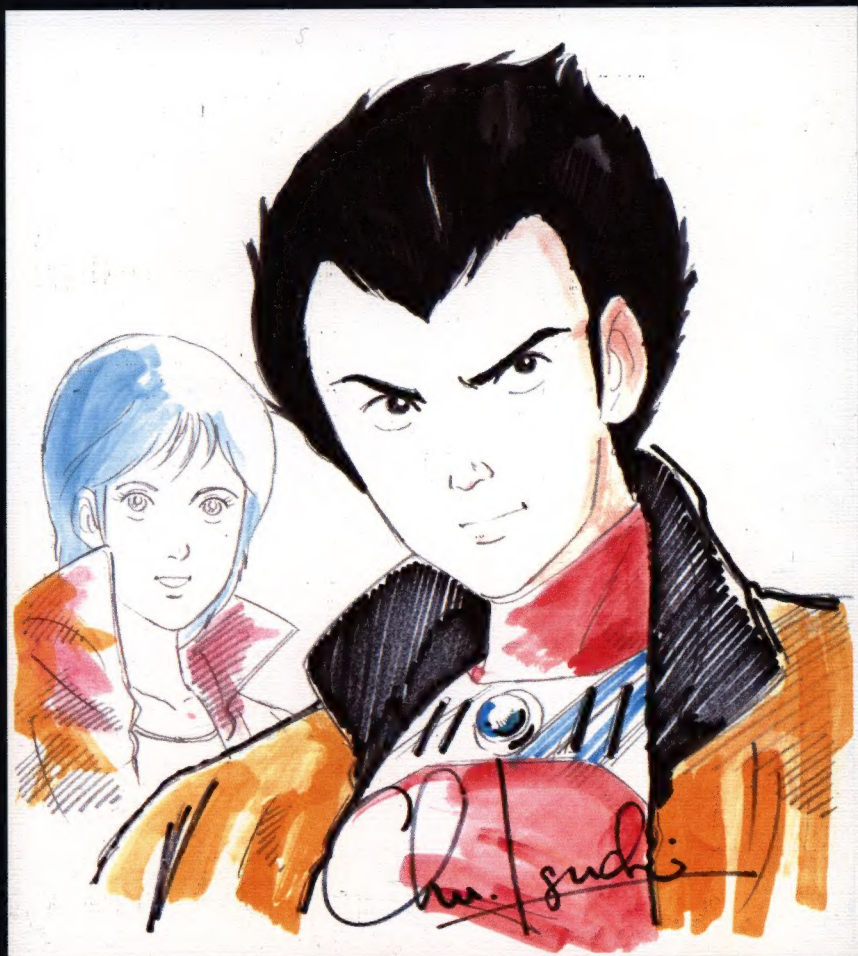
未来警察ウラシマン

TURNING POINT

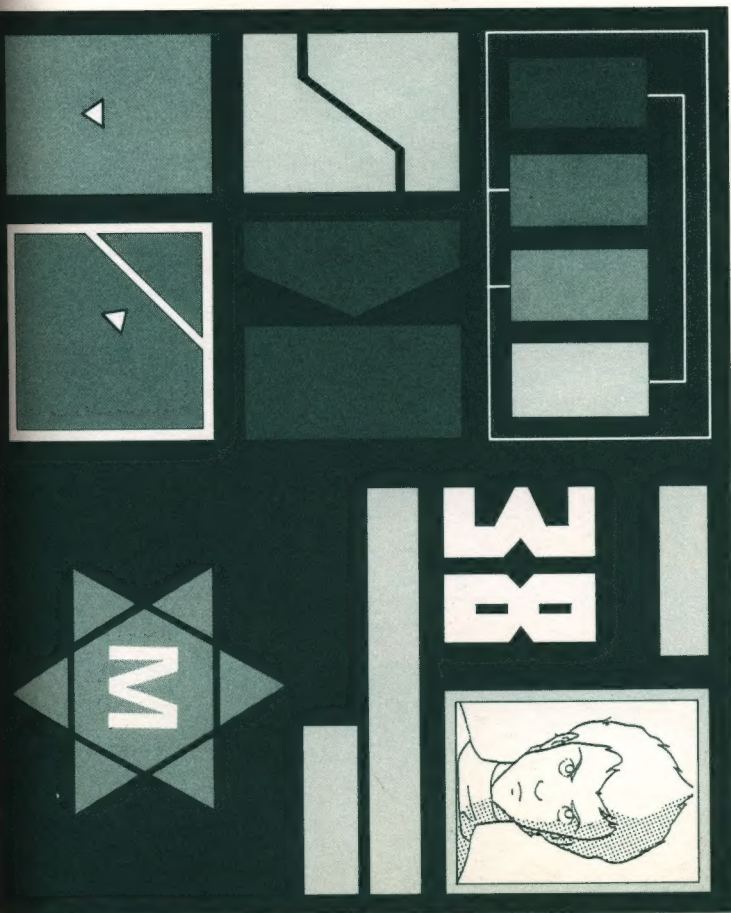
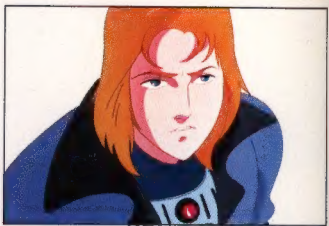
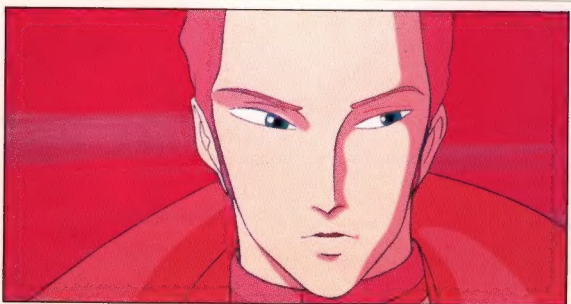
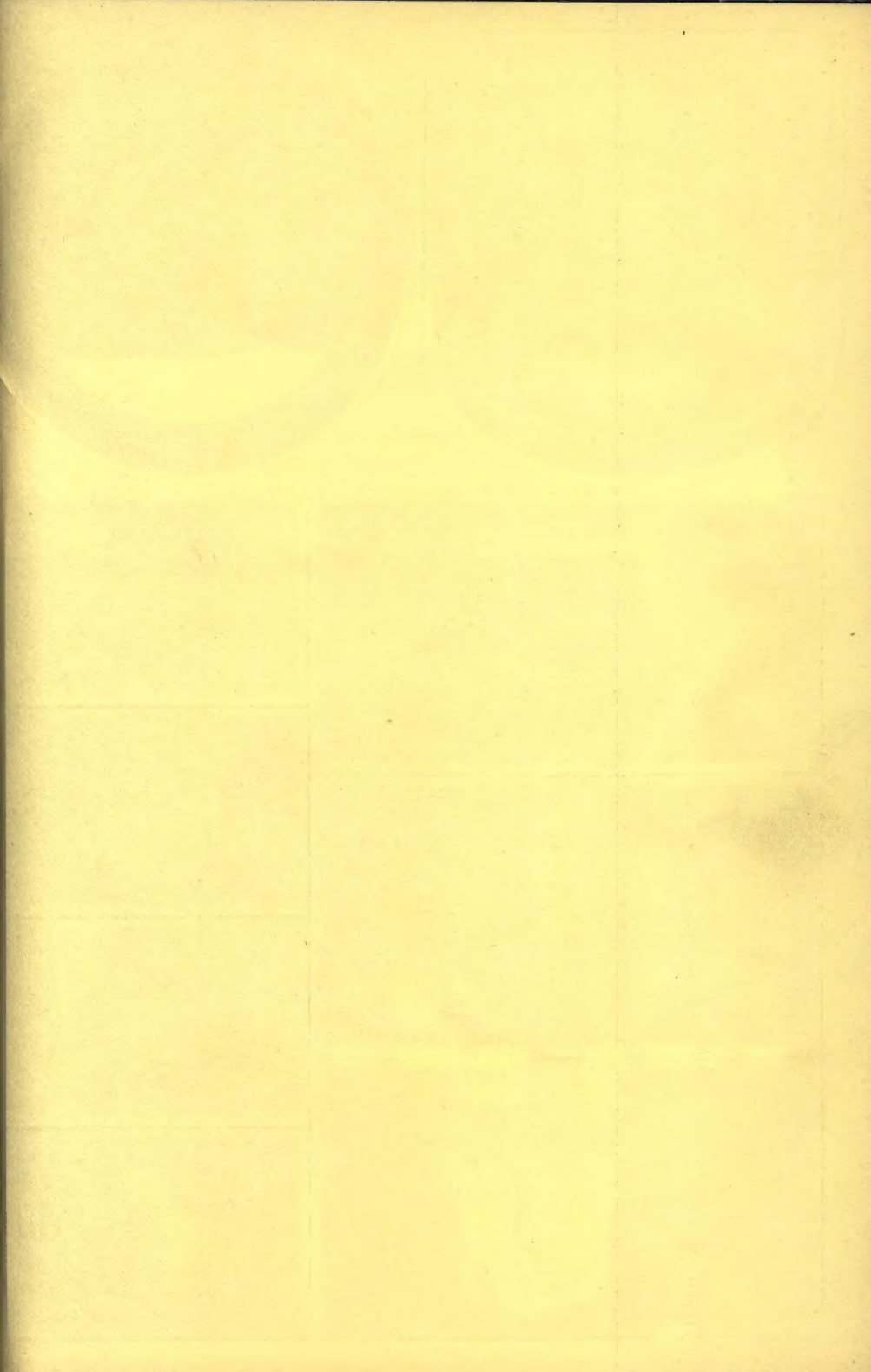
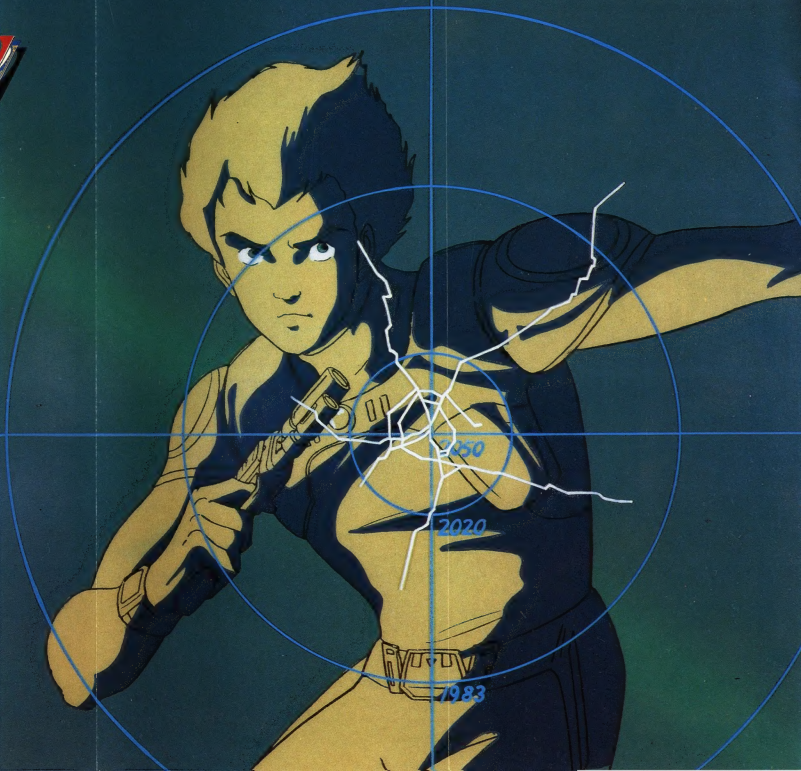
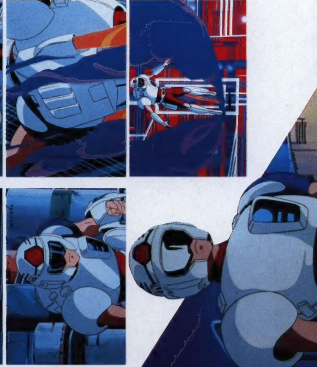
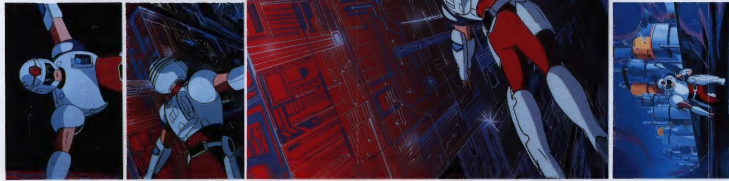
ふれふれ〜っ！ノート

COLOR BOARD COLLECTION

by Chuichi Iguchi

THE URASHIMAN●POLICE CARDS

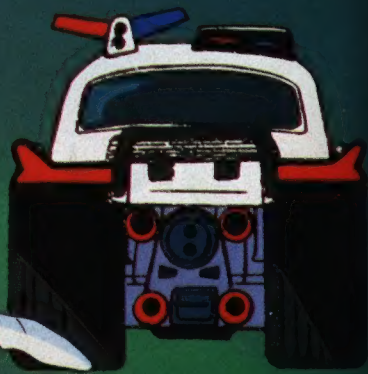
Presented by Animage

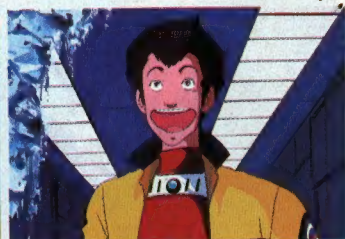
メカ分署のポリスカードはただの刑事カードではなく、メカ分署のメイン・コンピューターと直結させて使うパソコンを兼用させている。リュウ、クロード、ソフィア、権藤、共通で、各々のベルトの右小物入れに収められている。

MAGNUPOLICE
38
NEO-TOKIO

未来警察
ウラシマン
2050
2020
1983

BATTLE
PROTECTOR

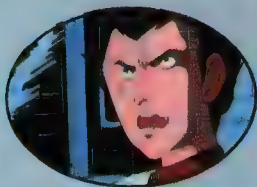
URASHIMAN....
the FUTURE POLICE

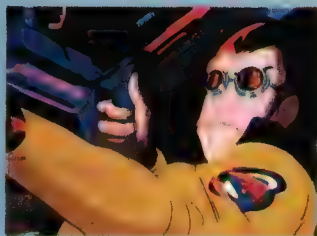
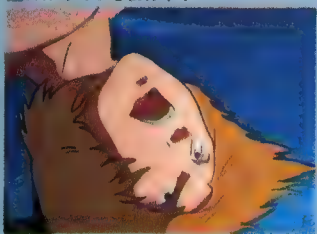
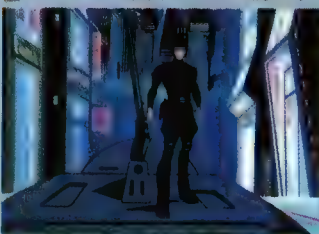
Ryu

ウラシマ・リュウ　機動刑事・マグナポリス38所属。タイムスリップをして、２０５０年の未来へ来た青年。人呼んでウラシマン。彼の過去はいまだ不明。

キリッとした二枚目なのです、本当は――けどねぇ

陽気さが、彼をささえるエネルギーだ！

リュウの仲間、良き友でありライバル(?)

リュウの視線の先には、なにが見えるのか

Ryu's episode

第3話　失なわれた時を求めて
絵コンテ／真下耕一　演出／澤井幸次
原画作監／井口忠一

〈セレクト・ポイント〉　1983年の東京から未来へきた男・リュウ。彼の原動力はやはり過去へのこだわりなのか。その答えのひとつが、この回にあるとみたが―― さて。

1ルードビッヒはウラシマンに疑惑を…

2過去の手がかりはデータ・バンクに！

3ネクライムの手がすでにのびていた

4追跡開始のリュウ

5過去へのこだわりが追跡の力なのか？

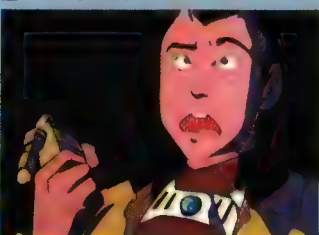
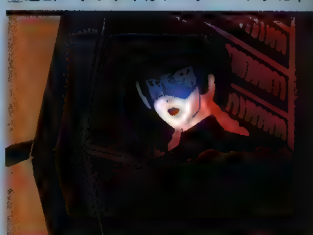
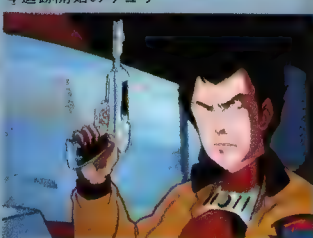
6スティンガー部隊、ウルフが相手だ！

7データを持ち去っていくウルフ

8追跡には失敗したが……

9自分専用車を製作中！

10クロードが捕まった、急げ！ リュウ

11ウルフに挑むリュウ

12バトル・プロテクターを身につけたリュウには、すでに過去はいらない

Clord

クロード　機動刑事・マグナポリス38所属。交通管制隊に所属していたが、権藤に引き抜かれ機動刑事に。「ハイウェーのイナズマ」の異名を持つ。

「女のことはまかせとけ」という彼も、スティンガー・キャットにかかっては――

2枚目はキッチリと決めてくれます

▲行け！　クロード　君の出番だ

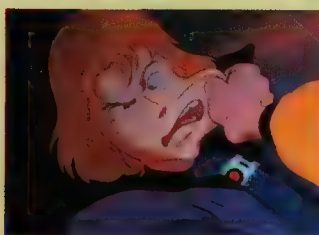
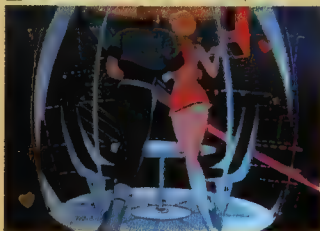
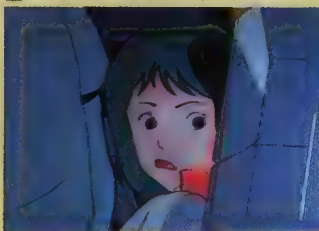
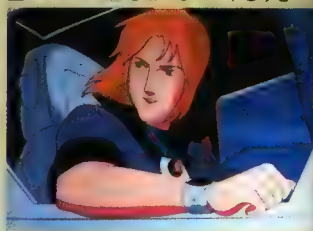
◀こんな顔もなかなかステキです♥

Clord's episode

第5話 危険なディスコ女王(クィーン)

絵コンテ・演出／古川順康

原画作監／河合静男

〈セレクト・ポイント〉 華麗な生活を夢みていたクロード。女性に甘い彼に目をつけたネクライムは、彼にターゲットを──彼が主役(?)なのです、この回はね。

1メカ分署分裂を企てるルードビッヒ

2女性をさそうのはとくいなはずが──

3しっかり張り手をくらってしまった

4女性の名はキャティ

5魅せられたのか、クロード!

6からかわれてリュウとけんか

7あきれ顔のソフィア(かわいい♡)

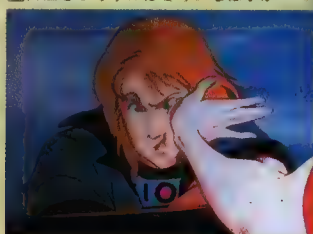
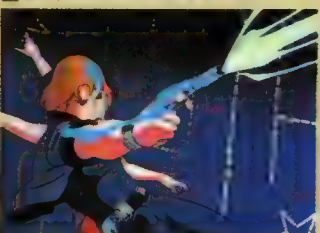
8テレビにキャティの姿

9妖しさすらみえるキャティ

10彼女はディスコ女王だった

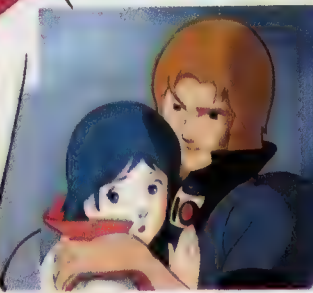
11クロードはさっそくディスコへ

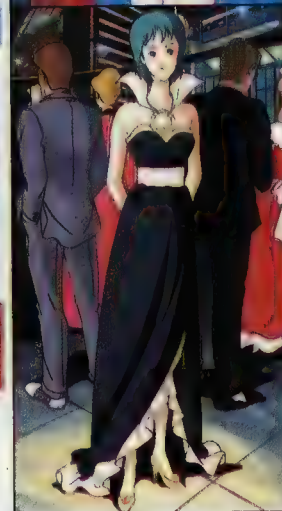
12キャティに近づいたクロードだが

13危険な香りがともなっている

14実は、スティンガー・キャット

15クロードの秘めた怒りがバクハツ!

ソフィア　機動刑事・メガロポリス38所属。見習いシスターだったのを権藤に引き抜かれた。なぜ彼女が選ばれたのか——それは謎である。

▲ソフィア、泣かないの

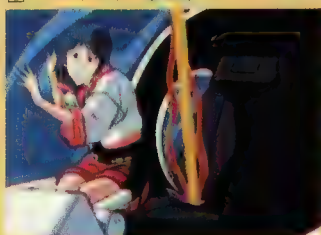
◀祈りは乙女によく似合うのだ

ソフィア・ファッション・ショー

リュウだとこうは決まらない

元祖キャイーン・ポーズ♡

Sophia's episode

第12話　空飛ぶ真っ赤な天使
絵コンテ・演出／貞光紳也
原画作監／河合静男

〈セレクト・ポイント〉　頭っから終わりまでソフィア中心の話はこれぐらい。リュウもクロードも残念ながらつけたしなのだ。ソフィアのいい顔まんさい。

8さすがクロード、かっこいい

1人工血液輸送、ソフィアに重大任務が――。「キャイーン」と 乙女が行く♡

9バンソウコウで修理完了！

10「どこねらってんのよお〜〜」

5「おやめなさ――い！」

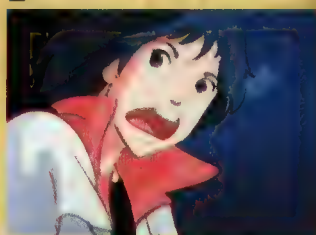
2ジタンダが、ソフィアを狙う！

11祝福のキスを受けるソフィア

6「乱暴はいけないわ――っ！」

3チェスキューにもりが命中

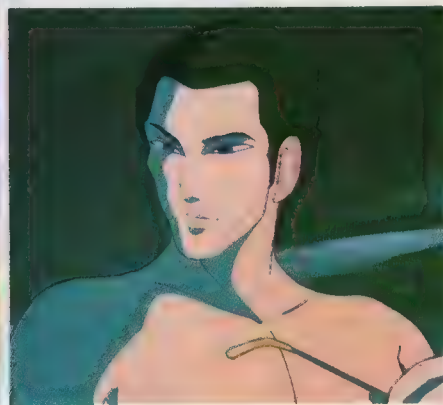
12下心みえみえのリュウには"ストップ"

7ど、どこがいたいけなんですか？

4チェスキューの逆襲

Loudovich
NECRIME

ルードビッヒ　犯罪帝国ネクライム・ナンバー2。軍人貴族の出で、一代にしてその悪の美学を完成しようとしている男。ネクライム・ナンバー1の座を狙う。

盛装した姿には気品すら感じられる

振りむく姿にもチラリとみえる"悪"の輝き

若き日のルードビッヒ

Loudovich's episode

第13話　過去にささったトゲ

絵コンテ・演出／真下耕一

原画作監／なかむらたかし

〈セレクト・ポイント〉　ルードビッヒの悪の美学ゆいいつの弱点。そこには、ジョセフィーヌという女性の姿があった。ルードビッヒ物語の序章がこれだ！

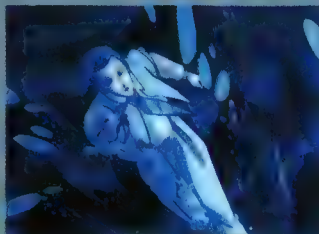
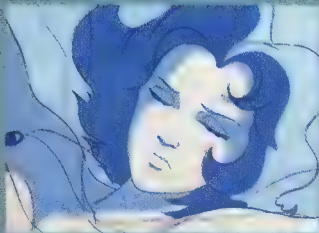
1"悪魔のツボ"ルードビッヒの眠っていたはずの過去を呼び起こした"トゲ"

2名門キャッツバーグ家・その頭首キャッツバーグと一人娘ジョセフィーヌ

3若き野心家・ルードビッヒ、ジョセフィーヌとの出会いは故意か、それとも……

4ジョセフィーヌ・夏

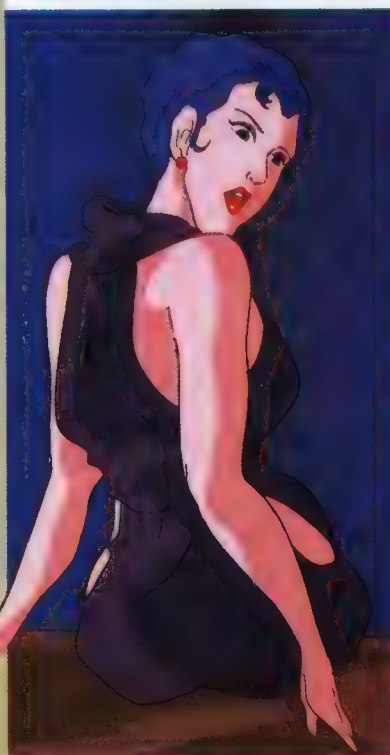
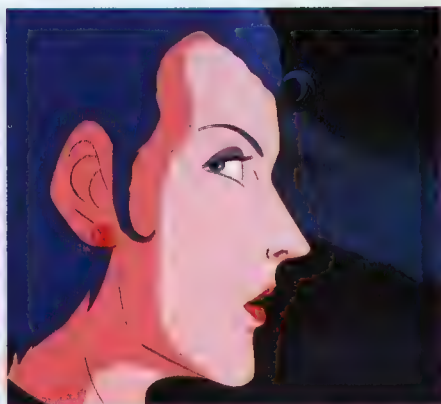
5ジョセフィーヌ・秋

6ルードビッヒの野心を知った彼女は…

7「ジョセフィーヌ！」

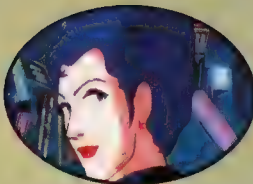
8若き生命(いのち)を絶ったジョセフィーヌ

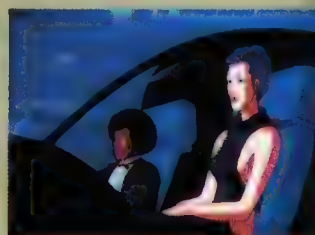
9その形見には秘密が——

NECRIME

ミレーヌ　犯罪帝国ネクライム・幹部。フューラー直属の部下。ルードビッヒの下にいるが、それだけではないように感ずる〝謎の女性〟。

大人の女性の魅力

ミレーヌ、その横顔には冷たさすら存在する

悪女の笑い、そこには謎めいた恐さすらあるのだ

Miraine's episode

第4話　追いかけてビートル
絵コンテ／貞光紳也　演出／石山貴明
原画作監／水村十司

〈セレクト・ポイント〉　ミレーヌのしたたかさが発揮され、追われる者と追う者のおかしさを味わえる回がこの話。もっとミレーヌの出番がふえてほしいと願い、ここに紹介。

1「しつこい坊やだこと……」

2「フフフ……」追いつめた者・リュウ

3「坊やには負けたわ……」

4かっこよく決めたつもりのリュウ

5あっさり逃げているミレーヌ

6「エヘッ、エヘッ」逃げているのはいいが、この運転手だいじょうぶ？

7やっぱり、逃走方法を変えました

8前番組の勝平くんもチョイ役登場

9変装したミレーヌです

10ミレーヌを追ってたんですが……

11ファッション・ショーの楽屋は混乱？

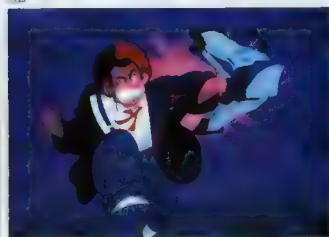
12リュウ、追跡はどうなったの！

NECRIME
Gitanda

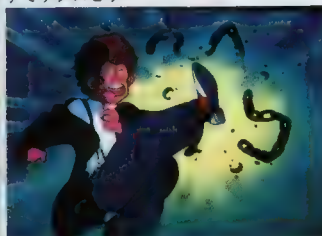
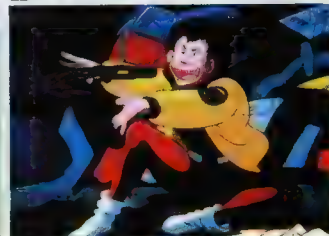
ジタンダ　犯罪帝国ネクライム・ルードビッヒ配下。ルードビッヒとミレーヌの下にいる小悪党。せこい犯罪が似あう男。しょせんはビッグになれないタイプ。

かっこいいでございますですダスどす

1「ジャッキー！」

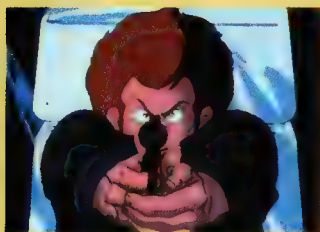
2「アチャー―」

3「チェーン！」

4「ハチョー」

5かっこよかったんだけどねぇ

Gitanda's　episode

第21話　入れかわった性格！

絵コンテ・演出／澤井幸次
原画作監／河合静男

〈セレクト・ポイント〉　小悪党ジタンダ、その魅力を十二分に出していた回。リュウとジタンダの性格が入れかわったときに、主役と脇役はその立場が逆転してしまったのどす。

1「お許し下さいませどす！」

2記憶を取りもどしに病院へ来たリュウ

3同じマシンにジタンダが——

4ホールド・アップするふたり

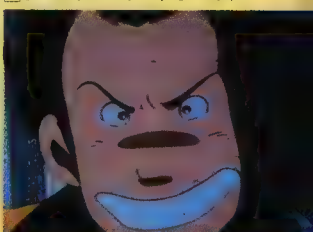
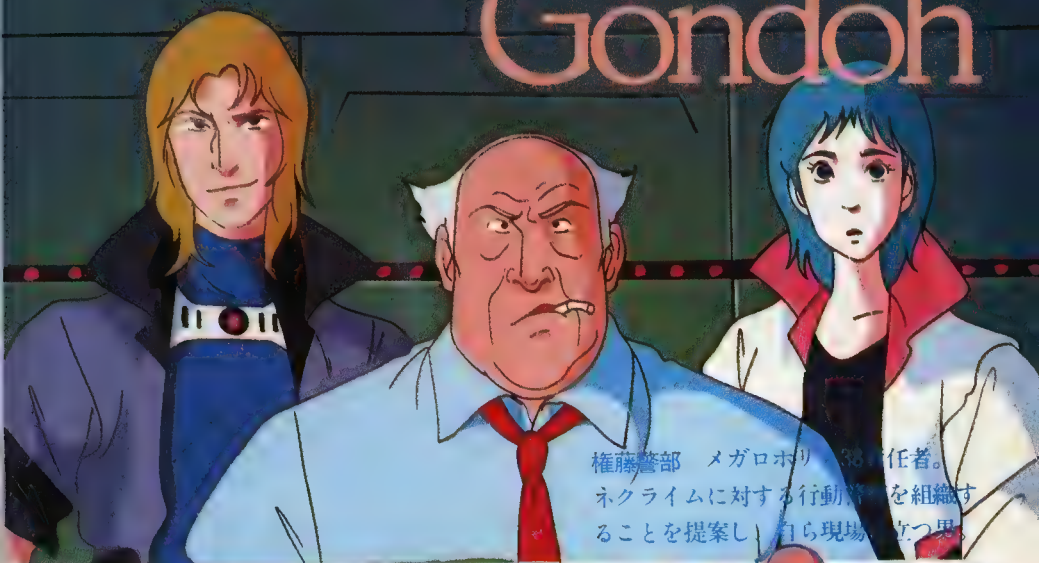
5なんと相手はジタンダ・リュウ

6一方、リュウ・ジタンダは——

7ミレーヌを追いつめたのです

8あ………ぜんのウェイトレスさん♥

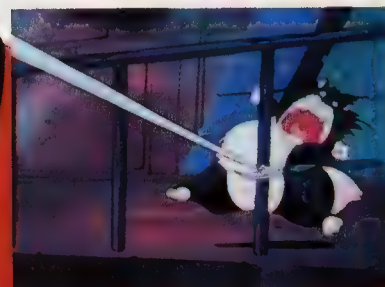
9権藤もわけがわからんようで——

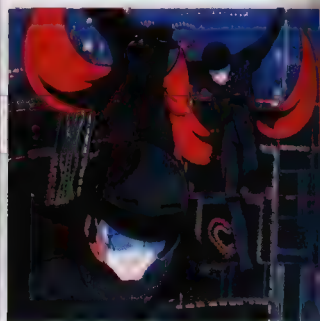
10ジタンダ・リュウがメカ分署ジャック

11スティンガー対リュウ・ジタンダ

12あっけなくやられる

13逃げだすジタンダ・リュウ

14電気ショックでもとどおり

15「あたしゃ、ジタンダでございますう」

NECRIME Stingers

ネクライム犯罪実行隊スティンガー部隊。
ウルフ、ホーク、シャーク、キャット、ベアーの5人から成る

パラショート・タイプ姿

ウルフの変装(しぶいですねぇ)

キャッツの変装・キャティ

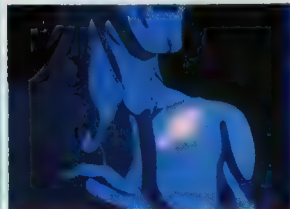
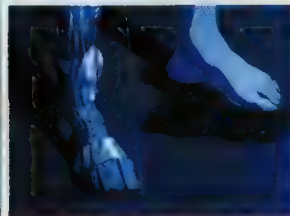
登場はさっそう!!

NECRIME
Fewlar

フューラー　犯罪帝国ネクライムの総統。一代にしてネクライムを築きあげた男。過去においてリュウと関わりがあったらしい。

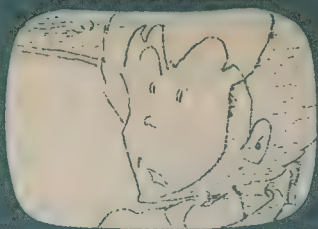
◀マッドサイエンティストQ　もっと活躍してくれぇ

▼フューラーがリュウの力を測定したプロジェクト3891のポット。開発者はマッドサイエンティストQ

フューラーの生命維持装置

リュウと同じ胸の傷

片足はすでにギ足

Directors Interview
Episode Guide
Character Design
Filmography

Director Interview 真下耕一

ましも・こういち　昭和♡年（田村プロデューサーと同い歳）双子座生まれ。竜の子演出部エース。「タイムボ [illegible] の子所属。「黄金戦士ゴールドライタン」で初CD

ウラシマン・スタッフ・チームの要、チーフ・ディレクターを担当。オープニングの絵コンテや、1・13・20話を演出。3話は絵コンテを担当。8月放映の32～34話は全絵コンテを担当、その出来が期待される。

※

――「ウラシマン」。この番組の持ち味の秘密は意外なところにあるようです。

「『ウラシマン』がどういうルールでできてきたかが最近わかってきたんです。制作プロデューサーの田村氏にうまく乗せられてるのね。人の使い方が嫌味なくうまいから、つい乗せられちゃうんです。思うに、制作プロデューサーの時代でしょ。リードがうまいからなあ。だから、物理的や時間的に苦しいスケジュールでも、精神的には苦痛じゃないんですよ」

――いわゆる真下さんは総監督なのですが。

「ぼくらはダンサーなんですよ。演出家といえどもプレイヤーなわけ。で、それがバラバラに動いてしまうと、どうしようもないんですが『ウラシマン』のスタッフの場合は、意外と同年代が集まっているということもあってだと思いますが、おたがいに意見しあえるんです。今回はダメだったが、今度はがんばろうって、意欲がでてくる。それも、やりたくないことをやってるんじゃないからだろうけど、このチームは好き勝手やっていても、ある一定の一線は守ってるし、どこからみても、やはり『ウラシマン』なんですよね。チーフっていっても、ふつういうチーフの仕事はしていませんし、あくまで個人のやりたいことが第一ですね。いつも、あれもやりたかった――と思うのが常なんですが――」

――物語前半の山場、リュウとフューラーの関係にまつわる32～34話の3本の絵コンテをきる真下さん。お話をうかがいにいったときはちょうどその絵コンテがあがる直前でした。

「よく竜の子、竜の子っていわれるんですが、あんまり竜の子って意識していないですね。おそらく、みんなそうだと思うんですが、確かにたての歴史の上では竜の子ですけど、『宇宙エース』や『マッハGO！GO！GO！』などをやっていたころの現場は知らないですから。会社に関わってからは、多少はそういうものに影響もされてると思いますが、やはりしょせんは関わった人たちから何かを得ているわけで、会社が教えてくれるわけではないんですよ。だから『ウラシマン』という作品でみれば竜の子でも、その1本1本は演出やら作画などの個性をだしているものですから、ちがうんだと思うんです」

（街）

▶なかむらたかし作画によるリュウのキャラクター設定より。

ウラシマン鑑賞法

町田知之

「――焼き鳥になっちまったオレを見たかったか」
「……、標的を失った殺し屋ほど、みじめなものはないからな……」
「さあて、昼間のつづきといくかあ」
「……勝負はもうついたようなもんだ」
「それはどうかな」
「よおし、勝負だ」

16話、リュウとルガーのメイスンが廃墟で対決したときの会話である。キッチリ、ハードボイルドをしているふたりにテレビの前で、手に汗にぎってしまった。「ウラシマン」には、劇場映画のようなおもむきすらあるのである。

と、突然話をはじめてスイマセン。しかし、「ウラシマン」は、どんなかっこうで観てもいいが、まじに楽しく観ることが必要なのだ。16話における男のロマンは、観る側へ作り手のおくったプレゼントのひとつなのだ。常に真剣勝負。戦いは、ギャグやコメディが似あっても、男と男、1対1の勝負では、まじなのである。

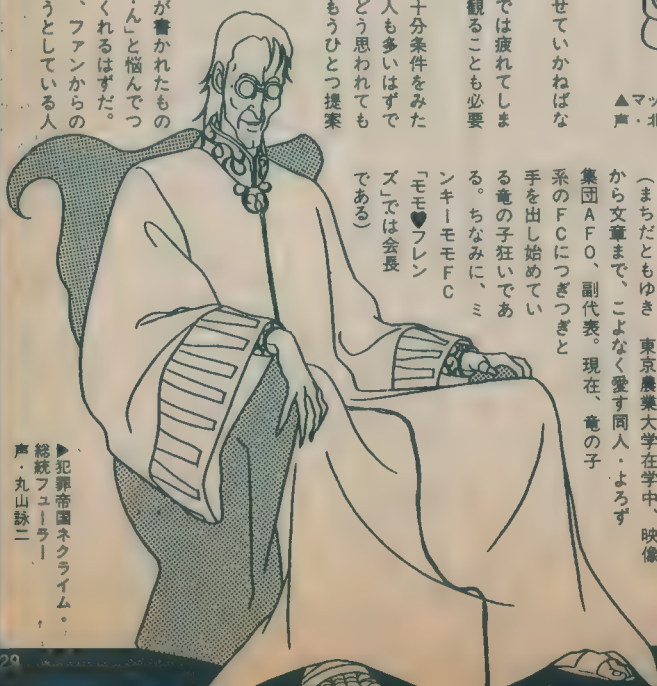
簡単にいってしまえば「ウラシマン」を観ようとする人は、テレビの前へ立った瞬間から、番組と真剣勝負してほしいなあ～～ということなのです。本来は、映画といわれるすべての映像にそういう感じでアタックしてほしいのだが、テレビというものが気軽さを大切にしているので強くはいえない。でもでもよ、まじに観ていないと損をするとしたら、これはやはり「勝負!」と、カッと目を開いて画面のスミズミをみてやろうという心構えが必要になって当然ではないか。

「ウラシマン」は、それをするに十分な作品に成長し、いまなお大きくなりつづけている。だからこそ、こちらも態度をそれに合わせていかねばならないのだ。

▲マッドサイエンティストQ
声・北村弘一

とはいうものの、まじばっかりでは疲れてしまうのだ。だからときには、楽しく観ることも必要となってくるのである。

でも、本当に「ウラシマン」は十分条件をみたしているのだろうか? そう思う人も多いはずである。が、それこそ各人の勝手、どう思われても仕方がないことである。そこで、もうひとつ提案させていただく。

「今日の「ウラシマン」はつまらんかった」と思ったら、それをメモしてスタッフに送りつけてやるのです。「つまらん」を連呼されても困るが、「どこが」と「どうして」が書かれたものであればスタッフの方々は、「うーん」と悩んでつぎにはきっといいものをつくってくれるはずだ。特に「ウラシマン」のスタッフは、ファンからのリアクションをも自分で吸収しようとしている人たちばかりなのだ。きっと作品でこたえてくれる。

「ウラシマン」は、楽しくまじに観る。これがすべて、どうあがいてもそれっきり。それが、それこそが本来の見方。わかっている人には、ロうるさいことでしょうが、思うに実行している人は少ないのが現状のようす。実にくだらない文章ではありますが、ちょっとぐらいはわかってほしい。

そして、これを読んだ日からは「ウラシマンは楽しくまじにみようね」を合言葉に、君もネオトキオへタイムスリップしようじゃない。ルンルン♥

(まちだともゆき　東京農業大学在学中、映像から文章まで、こよなく愛す同人・よろず集団AFO、副代表。現在、竜の子系のFCにつぎつぎと手を出し始めている竜の子狂いである。ちなみに、ミンキーモモFC「モモ♥フレンズ」では会長である)

▶犯罪帝国ネクライム・総統フューラー
声・丸山詠二

Director Interview
貞光紳也

さだみつ しんや 昭和[illegible]年[illegible]月23日生まれ「のらくろ」の動画から、「無敵超人ザンボット3」で演出デビュー。[illegible]を経て「ガッチャマンF」より竜の子作品に参加。

真下チーフ・ディレクターにして「一度、頭の中をのぞいてみたい」といわしめたほど、奇抜なギャグを生みだす才人。現在は竜の子作品が中心だが、金田伊功作画監督とチームを組んだ「ザンボット3」と「ダイターン3」の名演出ぶりが知られている。いわば、竜の子作品は、貞光監督の第2期といえるだろう。「ウラシマン」演出チームでは、最も多くたずさわり、2話「誕生！ブリッコ刑事」、6話「巨大ザメは美女好き」、12話「空飛ぶ真っ赤な天使」、15話「撮られたリュウの心」、19話「ティファニーで人魚」、25話「伝説のビッグサタデー」を演出、4話「追いかけてビートル」は絵コンテで参加している。

※

――貞光さんの絵コンテの絵は、可愛いらしくて魅力的ですが、マンガの経験は？

「もともと、雑誌マンガを書こうと思っていたんです。随分『ガロ』に投稿しましたね。うちの雑誌にはあわないといわれてしまいましたが（笑）あの頃はもの凄く暗くて、金田氏にもいわれたんだけど、年を取るごとに明るくなったみたいですね」

――貞光さんの演出には、リズムが感じられるのですが。

「真下さんが理論派とすれば、ぼくは、行きあたりバッタリの演出ですね。結局、流れの中でやっているのでダダダと行くときもあれば、ストップすると全然進まないんですよ。」

――12話で「ジャッキー」と「チエーン」で「ジャッキー・チェーン」とひっかけたギャグなど、貞光さんのギャグ・センスにはいつも驚いているんですが、貞光さんのギャグの発想源は？

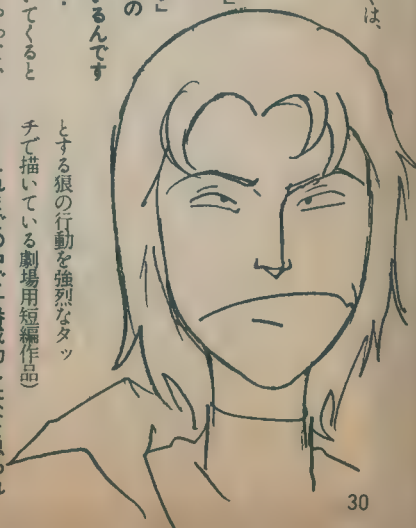
「コンテをきっていて、突然、わいてくるということが多いですね。思いつきでやっている部分がかなりあります。何かをしたら、どうしてもその反動がほしくなりますよね。逆にその反動を肩すかしさせたりするわけです。あたり前なことはやりたくないですね。『ロードランナー』というアニメが好きで、あのふんい気でやりたいなと思っています。（『ロードランナー』は、アメリカのアニメ作家、チャック・ジョーンズの不条理アニメ。"道走り（ロードランナー）"なる鳥をなんとかつかまえようとする狼の行動を強烈なタッチで描いている劇場用短編作品）

――これまでの中で一番成功したなと思われる話数は？

「4話か12話ですね。『アジャパー探偵』（伴淳三郎主演）じゃないけれど、追っかけになるとおもしろくなるのね。『アジャパー』といえば、『ムテキング』の時、コンテの中でいわせたら、見事にけずられちゃったわけ。で、『ダッシュ勝平』のときにもやったら、今度はやたら『アジャパー』というようになったのね。リュウの中にも、『アジャパー探偵』に通じるところがあるかもしれませんよ」

◀なかむら・たかし作画によるクロードのキャラクター設定より。

1 突然！2050年

STORY

１９８３年、東京。嵐の夜に疾走するワーゲンが一台。パトカーに追われるその車には、ひとりの若者と一匹の猫。若者がうごめく暗雲の中に光を見た時、その車はガードレールを飛び出していた。しかし、若者を乗せた車は妖しい光に包まれると21世紀も半ば過ぎの未来世界へタイムスリップしてしまった。

未来へ来てしまった若者は、ハイウェイパトロールのクロードに捕まるが、謎の組織ネクライムの手によって脱出。追ってきたクロードとともに、ネクライムの手をのがれ、見習いシスター・ソフィアのいる教会へ逃げこんだ。

「未来警察ウラシマン」は、こうして全てを謎にしてスタートした。

POINT

タツノコファンが待ちに待っていたウラシマンは、突然――といって始まった。ドラマチックなスタートには嵐がよく似合うという定石どおりながら、視覚的にも実写を現像処理して使うなど意欲満点。クロードとリュウの出会いから、レギュラーそろいぶみまで息をもつかせぬ第1話。動きもバツグン、見て損なしです。第1話でアラさがしはご法度なのだ。

▶謎の消像画

2 誕生！ブリッコ刑事

STORY

タイムスリップした若者に、機動メカ分署の権藤警部はウラシマ・リュウと名をつけ、機動刑事となって、犯罪帝国ネクライムと戦ってほしいと頼んだ。しかし、リュウはマグナポリス38を飛び出し、追ってきたクロードを振りきって、ソフィアの教会がある裏町へころがりこんでしまう。

教会で、心を改めた者たちが働くビル工事現場で、ねそべっていたリュウは、一緒にタイムスリップしたネコ・ミャーと再会。そして、ネクライムのミレーヌ、ジタンダに過去へ返してあげるとさそわれ、ソフィアのとめるのも聞かずについていってしまう。

POINT

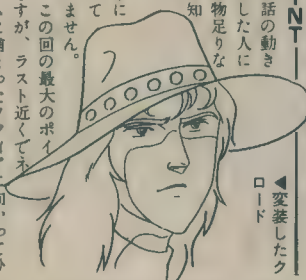
メカ分署の陣容がかたまるこの一編。しかし、ウラシマンの超能力とはナニ？

第1話の動きを期待した人には少し物足りないかも知れませんが、そんなに欲ばってはいけません。

で、この回の最大のポイントですが、ラスト近くでネクライムに捕まったソフィアに向かってひとり立ちむかうリュウ。主題歌に乗ってリュウのかっこよさが光ります。また、このシーンのしめくくりのリュウとクロードの会話が最高。「グッド・タイミングじゃん」「センスがいいからね」ね、決まるでしょ。

◀変装したクロード

3 失なわれた時を求めて

STORY

メカ分署の一員となり、ネオトキオでの生活をはじめたリュウだが、過去の手がかりをもとめてパーソナル・ヒストリー・データーバンクへやってきた。しかし、リュウが１９８０年代のデータの前へ来たとき、ネクライムのスティンガー部隊が爆風とともにあらわれ、まんまとデータを持ち去ってしまった。ネクライムのルードビッヒが、ウラシマンの秘密を探ろうとしていたのだ。

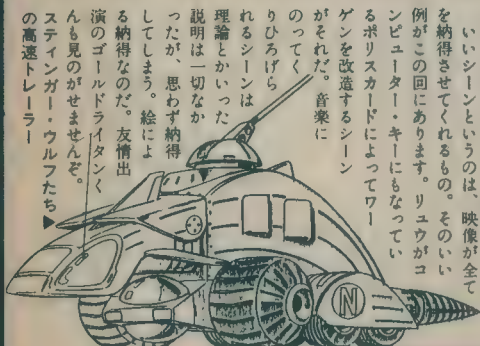
マグナポリス38にもどったリュウは、自分が乗ってきたワーゲンを改造し、マグナビートルとした。一方、ネクライムの動きを追っていたクロードは「発見した」という連絡をしたきりになっていた。急行するリュウ、そして、ソフィア。そのふたりの前に宙づりにされたクロードの姿が――。

POINT

いいシーンというのは、映像が全てを納得させてくれるもの。そのいい例がこの回にあります。リュウがコンピューター・キーにもなっているポリスカードによってワーゲンを改造するシーンがそれだ。音楽にのってくりひろげられるシーンは理論とかいった説明は一切なかったが、思わず納得してしまう。絵による納得なのだ。友情出演のゴールドライタンくんも見のがせませんぞ。

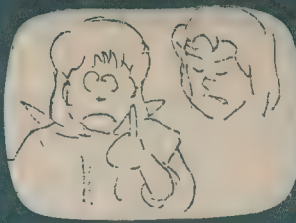
スティンガー・ウルフたちの高速トレーラー▶

4 追いかけてビートル

STORY

ホーセキイ科学研究所から秘薬が盗まれた。盗んだのはミレーヌとジタンダ。マグナビートルで追うリュウ。霧の中、ようやく2人を追いつめたリュウだが、ジタンダと車が海中に落ちた間にミレーヌに逃げられてしまう。ミレーヌを追うリュウ。タクシー、地下鉄と逃走路を次々と変えるミレーヌ。そして、とあるホールへ逃げ込んだミレーヌを追ってリュウは、ファッション・ショーの楽屋へ飛び込んでしまった。男性モデルの代役としてステージへ出たリュウは、デート中のクロードを発見するとともに、モデルとして入り込んでいたミレーヌをみつけた。ついに追いつめたリュウは、無事に薬を取りもどせるか？ 早トチリだけに心配だが――。

POINT

追っかけというのはリズムとタイミングがいのち。絵にしやすいようでも、それをまちがえるととんでもないことになってしまうものです。でも、この回は久々に追っかけのおもしろさを楽しめた話でした。貞光絵コンテを、若さの石山演出がささえた好編。トーキー映画の気分で、リズムとタイミングを十分に味わってほしい1編。ミレーヌのしたたかさもいいですよ♡

▶ミレーヌの変装した老婦人

Director Interview

澤井幸次

さわい・こうじ　昭和30年9月14日生まれ。竜の子プ[illegible]士ゴールドライタン」の第[illegible]演出デビュー[illegible]の最終回[illegible]タン[illegible]彼の担当である

澤井監督は、3話よりシリーズに参加。以降、7・14・21話と担当している。3話「失なわれた時を求めて」は、バトル・プロテクターが初登場した回で、1回目の演出作ということもあり、印象深いエピソードだという。

※

――バトル・プロテクターの発進から着地までのシーンは、素晴らしかったですね。

「3話の絵コンテは、チーフ・ディレクターの真下さんなんですけれど、絵コンテの段階で打ち合わせをしまして、オープニングでは使用していないんですけれど、バトル・プロテクターが装着する場面のバックに、エレクトロニクスのイメージをとり入れようと決めたんです。でも、それをどういう形で表現したらいいのか、それが一番悩みましたね。結果としてああいう感じになったんですけれど」

――21話「入れかわった性格!」は、リュウとジタンダの性格が入れかわるという奇抜なストーリーで、各キャラクターの演出に苦労されたと思うのですが?

「性格が入れかわったときには、徹底的にくだけさせたほうがいいかなと、考えまして、フィルムにしたときにも効果的だったと思います。逆に、入れ変わった人間を〝らしく〟見せるときに頭からお尻までそれで流してしまうと、印象がうすれてしまうのではないかなと心配で、その辺をどう調整するかが大変でしたね」

――「ウラシマン」は、ユーモア、シリアスアクションとさまざまな要素が入った作品ですが、澤井監督としては、どのジャンルが一番向いていると思われますか?

「そうですねぇ、自分ではわからないんですけれど、ユーモアにしても、シリアスにしても、ドラマはあるわけで「方法」を変えれば「テーマ」は追求できると思います。まだまだ、さまざまなものにチャレンジしてみたいと思いますね」

――澤井監督の演出上のポイントは?

「やはり、ドラマの流れの中で、自分の主張が見ている人にうまく伝わるように心がけています。それをふまえた上で、流れで追うとか、個々のキャラクターの性格づけなどがうまく、フィルム上で表現できたらいいなあと思っています。

たとえば、メリハリのきいたお芝居をすると気持ちいいですよね。逆にそれを、これでもか、これでもかと続けてしまうと、それに馴れてしまって、逆に新鮮でなくなってしまうことがありますよね。そういう意味で見ている人を絶頂感に陥れるような手法をつかみたいですね。『ウラシマン』の場合は、さまざまな方がやられているので、人のやった回を見るとショックを受ける場合が多くて、いい意味で刺激しあっていると思いますね」

なかむらたかし作画によるソフィアのキャラクター設定より。

5 危険なディスコ女王（クイーン）

STORY

メカ分署の出現によって、たてつづけにやられつづけるネクライム極東支部。ルードビッヒは、リュウたちメカ分署をバラバラにすべく、スティンガー・ウルフの考えた作戦を開始する。

訓練中のリュウとクロードに近づく謎の女性。これが、ルードビッヒたちの作戦とも知らず、女性にひかれるクロード。

女性が、ディスコクイーン・キャティであることを知ったクロードはディスコへ。その後を追うリュウ、そして、ソフィア。キャティに迫まるクロード。それを冷ややかな目でみつめるミレーヌ、ジタンダ。リュウ、ソフィアの乱入によって正体をあらわすキャティ。そして、メカ分署対スティンガーの戦いが始まった。

POINT

クロードとリュウのコンビネーション。それは各人の自信が、バランスをもっていた。 -などと考えて見ていくと予想以上におもしろく見れてしまう。無重力ディスコでの透過光とか、アクションシーンなどをみても楽しめるし、見方ひとつでこの作品は色んなおもしろがりかたがあるということなのです。

▲ディスコ女王、キャティ

6 巨大ザメは美女好き

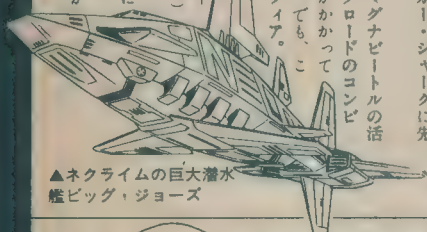
STORY

サメの仕様か？ 大規模な養殖場がつぎつぎと荒らされた。しかし、サメが特殊強化ガラスを破れるのだろうか。メカ分署は、裏にネクライムありとみて、イースト・フィッシュ養殖会社へ向かう。

スティンガー・シャークに襲われた社長からネクライムにゆすられていることを知った権藤はおびき寄せる作戦をとる。毎回、決まって美女がさらわれることを逆手にとりソフィアがオトリに。そして、出現したサメ。それはネクライムのメカザメだった。メカザメとともにソフィアがさらわれ、後を追うリュウとクロード。巨大潜水艦ビッグ・ジョーズに潜入した二人は、さらわれた美女たちを救い出せるのか。「ウラシマン」海洋ロマン編。

POINT

S・スピルバーグの「ジョーズ」でもあるまいし、サメが美女を襲わないとさまにならないという理由だけで、メカザメを使用したスティンガー・シャークに先ずは脱帽。

いつも元気なマグナビートルの活躍や、リュウとクロードのコンビプレイもみがきがかかってきた感じでグー。でも、この回の主役はソフィア。水着姿もあるし、ペン・ケーシーばりの手術(?)も見られます。ソフィアファンにおすすめの一品。河合作画で観たかったなぁ。

▲ネクライムの巨大潜水艦ビッグ・ジョーズ

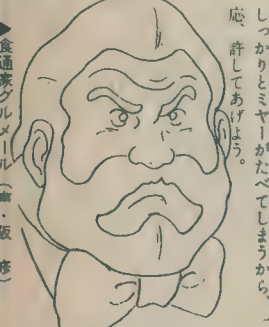
7 札束でひっぱたけ！

STORY

事件!? サイレンを鳴らし疾走するマグナビートル。それを追うスポイラー。そして、チェスキュー。その行動力に気分をよくする権藤。しかし、リュウの目的は手打ちうどんだった。

食通家・グルメールによって、手打ちうどんを食べそこなったリュウたちに、今度は本当の事件が待っていた。それは一粒一億ダラーもするという小麦の種「ミノリ21号」。調査を開始するメカ分署。そのころ、グルメールの前に、ニュー手打ちうどんを食べさせてやろうという若者があらわれる。秘密のうちに、だんどりがつき「ミノリ21号」を取り引きしようと乗り込むグルメール。そこには、ルードビッヒたちが――。しかし、その若者こそリュウだった――。

POINT

手打ちうどん。いまでさえ、名物○○とかいって、やや高のうどん。これが未来世界へいくと、メチャメチャな高級品。物語の導入部にくりひろげられる、いかにも機動刑事というシーンはかっこいいのだ。リュウの変装もなかなかのものです。必見。でも、機動刑事が貴重品をくすねてしまっていいのか、疑問が残る作品。ま、オチでしっかりとミヤーがたべてしまうから、一応、許してあげよう。

▲食通家グルメール（声・阪 修）

8 月の足跡は80才？

STORY

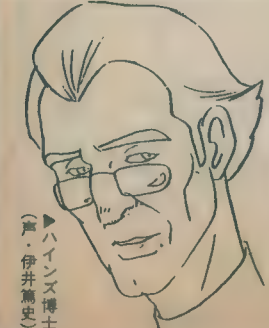
科学の進歩、人類のたゆまぬ冒険心、月へ人類が第一歩をしるした足跡は、それらのシンボル。その足跡が遺跡保護官・ハインズ博士の手によって地球へ持ってこられようとしていた。

その日、ニュースで遺跡至着を知ったメカ分署の面々は、ネクライムがその遺跡に目をつけているのを知り宇宙港へ。が、一足遅く、遺跡はスティンガー部隊が持ちさっていた。しかし、安心しているハインズ博士にソフィアは疑問をいだく。スティンガーの手から遺跡を取りもどしたリュウたちに、ハインズ博士は信実を語り始める。なんと、足跡はニセモノで本物はあやまってこわしてしまったというのだ。が、リュウは名案があるという。

POINT

史跡、遺跡の価値というのはどんなものなのでしょうか。その答えのひとつが、この回にはあります。人の歴史にとって、記憶しておかねばならないこと、それは、物質的存在感だけではないのだ。ちょっとムズかしい話になってしまってスイマセン。ぜひみて判断して下さい。リュウのマグナビートルの動きも最高の回です。

▲ハインズ博士（声・伊井篤史）

Director Interview

石山タカ明

いしやま・たかあき　昭和35年7月21日生まれ。「黄金戦士ゴールドライタン」の演出助手として、予告編の構成も担当。28話「謎のジャングルジム」で演出デビュー「逆転イッパツマン」「地球物語」にも参加する

石山監督は、「ウラシマン」チーム最年少の演出家。高校時代に「科学忍者隊ガッチャマン」の再放送を見て感動し、竜の子プロに遊びにきて真下耕一監督と出会う。学校を卒業後、竜の子に入社したという有望新人。チャレンジ精神も高く、ときには、真下監督もリテークを出されるという。本名は、石山貴明だが、生命判断にしたがい、石山タカ明と改名、現在は、石山タカ明名を使用している。本編は、4話より参加、8話、11話、18話、22話と、コンスタントに演出している。

※

——絵コンテは8話「月の足跡は80才?」からですね?

「そうです、『ゴールドライタン』のときに、一度絵コンテを書きまして、『ウラシマン』の8話が、2本目になります」

——演出するときのポイントは?

「流れを止めないように、一気にバーッと見せてしまうということですね。多少のウソがあっても、最後までもっていったとき、後で、あれはなんだったんだろうと思わせられれば成功だと思います。見ている者を最後まで飽きさせないでもっていければと思っています」

——4話以外は、アクションよりも、ドラマ中心の話が多いですね?

「どちらかというと、ドタバタ動くよりも好きですね。理想論になるかもしれませんが、洋画チックな作り方をしたいと思っています」

——演出の際に、新しい試みは何か?

「そうですね。たとえば、透過光ひとつにしても、本当はさまざまな種類があるわけで、バトル・プロテクターが銃弾やビームを受けたとき、バーッと光りますよね。この光のエフェクトは一応、ぼくが考案したんです。バトル・プロテクターは3話で登場していますが、4話では、その偉力を見せなければいけないので、すこし凝ってみたんです。それで通常タブーとされている、スリット・マスク(線を抜く)の手法を使ってみました。今度やる33話では、また変わった効果を考案する予定です」

——スライゼーション効果を使ったリュウの目のモデルが、石山さんだとお聞きしたのですが?

「ええ(笑)なぜかそうなっちゃったんですよね。偶然、そこにいたからなんですけれども(笑)。あの撮影は大変でした、熱くて。500ワット級のライトを2つ、顔に近づけて目を接写したんです。目をパチパチとまばたくタイミングも、なかなか苦労しました。すべて、真下チーフ・ディレクターが悪いんですなんてね(笑)」

▶なかむらたかし作画による権藤警部のキャラクター設定より。

▲なかむらたかし作画によるミャーのキャラクター設定より。

9 昨日の友は今日の敵

STORY

恐るべきルードビッヒの計画。それは、人間がおのずから秘めている潜在的な犯罪願望を引きだし、ネクライムの思い通りに操ろうという作戦だった。

メカ分署内の食料買い出しにきたクロードとソフィアは、エンジェルリングが頭にともった瞬間から、人が変わったように暴れまわる人々と対決する。そして、連絡を受け、助けに来たリュウはスティンガー部隊らによって連れさられたソフィアとクロードのことを知らぬまま、エンジェルリングによって操られる民衆にとまどってしまう。

やっとのことで、秘密基地をつきとめるリュウ。そこには、クロードが、ソフィアが——。

POINT

ソフィアの買い物シーンに「キャイーン」といってる人がいたら、ハッキリいって病気です。気をつけてくださいませ。

さて、この回の魅力といいますと、ストーリー。タイトルどおりに、クロード、ソフィアといった仲間が、リュウと敵対してしまうところ。ゴールドライタンでもエンジエルリングで、仲間を引き裂くというのがあったような気がしたんだけど、その辺は気にしないでおこう。

▶チャン・リー（声・水島鉄夫）

10 エベレストより高く

STORY

エベレストにやってきたリュウたち。そこで、ネクライムの野望に気づいたリュウたちは、エベレストへ挑む。なんとエベレストを低くしようとしているのだ。それもチャン・リーという金持ちが個人所有しているマウント・カムイを世界一の山にするための計画だった。世界一、そこにはどんな魔力があるというのだろうか。とにかく、個人的目的のためにそんなことをされてはたまらない。リュウたち決死の登頂が開始される。

エベレスト山腹で、スティンガー隊と相まみえるリュウたち。無事にバカげた計画を阻止できるのか？　が、物語はもっとバカげた結末が用意されていたのだ。人間なんてしょせんはおろかな生き物よのお。

POINT

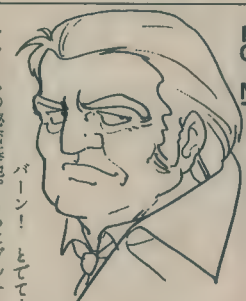
自分の持ち山を、世界一にしようとするチャン・リー。ギネスに乗ることだけのためにミャーたちをエベレストへむかわせる権藤。ギネスとはなんて罪深いものなのだろうか。なんて、まじにやってもしょせんは、ギャグが売り物の回なのです。リュウとクロードが、チャン・リーとからむさまは最高なのさ!!

11 挑発！南の島に吹雪

STORY

リュウたちは常夏の島ハワイトピアにきていた。ここで対ネクライム国際秘密会議の第1回大会が開催されるのだ。会議参加者は少なかったが、開催されるまでになった現状に喜ぶ権藤。と、そこへ挑発するがごとく常夏の島に雪が——。しかも、大雪注意報まで出され、ハワイトピアは大混乱。「ネオストーブ」という商品がバカ売れし常夏の島はその様子を一変してしまうのだった。が、これには裏があった。ネクライムのルードビッヒが、特殊操置を使って雪をふらせていたのである。

ネクライムを追うコロンダ刑事とリュウの超アンバランスコンビは、この事件の手がかりを「ネオストーブ」に求め、ルードビッヒのアジトをつきとめるが——。

POINT

▲ベテラン刑事コロンダ（声・内海賢二）

バーン！　とでてくるネクライムの秘密基地。もろにガッチャマンを思わせるそれは、ただ然のしろものでした。また、内海賢二さん演ずるコロンダも決まっていてグー。この回のラストでは再びソフィアの水着姿もでてくるし、おもしろさ満点。魅力満点。

雪を好むルードビッヒの謎は、13話までお待ちください。

12 空飛ぶ真っ赤な天使

STORY

「人工血液フルオゾールDAを手に入れるのだ」総統フューラーの命令が、ルードビッヒに下った。そして、警視総監の乗った車がネクライマーに狙撃され、メカ分署は〝人工血液輸送作戦〟を開始する。総監はナント2000人に1人というRh－AB型だったのだ。そして、リュウ、クロード、ソフィアが別々に、それぞれ内緒に輸送をスタートする。だれが本物を運んでいるのか知っているのは、権藤ただひとり。ネクライム側とメカ分署側のハチャメチャ入り乱れの大作戦。ソフィアがジタンダに、クロードがネクライマーギャルに、リュウが武装軍団に、つぎつぎと襲われていく。無事に病院へ〝人工血液〟は届けられるのだろうか。

POINT

ソフィアファンのみなさま、お待たせしました——の回。貞光絵コンテのスーパーリズム感が、河合作監にささえられてバクハツしているのです。声優陣の乗りも相乗効果を与えて本当におもしろいのです。チエスキュー乱舞が、ネクライム武装軍団に追われるリュウが、もう怪作と呼ぶしかない。必見、再見、ぜったい見てね。ビデオに撮った人は宝になってしまう1本です。

▲総監（声・細井重之）

Director Interview
古川順康

ウラシマン・ファンの中で人気が高い、16話「殺し屋グッドラック」をはじめ、5話、10話、23話と好編を続出させている古川監督。物静かな口調で、単々と語ってくれた。

※

—これまでの作品歴をみると、メカものが多いですね？

「そうですね。ギャグをこれだけ取り入れた『ウラシマン』のような作品ははじめてです。それだけに、かなり苦しんでやっています。最近は自分でもわからないんですが、好きになりつつは……ありますね。かなり好きにやらせてもらっていますし、自分を出せる部分がある作品ではありますね」

—16話はファンの間で人気が高いですが。

「そうですか？ あのメイスンのキャラクターは、原画作監の加藤さんに『0011／ナポレオン・ソロ』のイリア・クリアキン風なものをお願いしたんですが、いい感じのものが上がってきたので、うれしかったですね」

—ズボンの感じがルードビッヒに通じていたように思われますが？

「そうですね。ルードビッヒと対等のキャラクターでなければならない、ということもありましたし、加藤さんのセンスですね」

—リュウもよかったですね。

「あのときには、リュウというキャラクターの性格をつかみきっていなくて、どうなんだろうな？ という感じで、上がってからも半信半疑なところがありましたね」

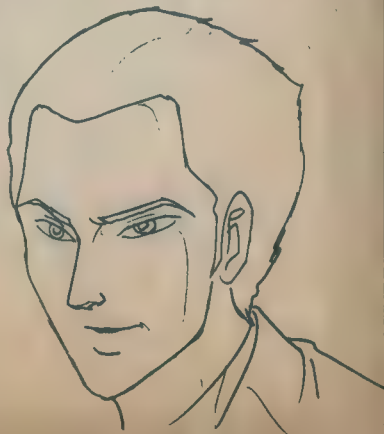
—リュウを描く上で、超能力を持っているか、持っていないかで、かなり演出も違ってくると思うのですが、監督はどう思われますか？

「超能力でなんでもできるというのは、おもしろくないでしょうね。やはり、生身で、一生懸命走って、ズッコケて、という感じのほうが、おもしろいキャラクターになると思いますね」

—26話は、なかむらたかし作画監督の絵コンテですね。

「ええ、なかなか大変ですよ。今回は、演出に専念していますが、どれだけ、なかむら氏のコンテのイメージにそえられるか、という感じですね」

—監督は、フリーということですが、現在は『ウラシマン』以外には？

「『みゆき』をやっています。SFっぽいものは、どちらかというとあまり得意ではないんですけど、『みゆき』も大変でした。原作のイメージが強いですし、具体的な方向性がうち出ていない分だけ、どうしたものかな？ という感じですね。どうしてもマンガのコマ割りが気になりますし、変にカットを作っても、原作のイメージを壊してしまいますし、むずかしいですね」

▶なかむらたかし作画によるルードビッヒのキャラクター設定より。

13 過去にささったトゲ

STORY

"悪魔のツボ"にまつわる最後の悲劇。キャッバーグ家の崩壊の謎を知る者はダレもいない……。

ビルの屋上から何かを見張っているクロード、リュウ、ソフィア。ソフィアの情報ではむかいのビルにルードビッヒがいるというのだ。3人のみつめるなか、ルードビッヒが、ミレーヌ、ジタンダを振り切ってひとり、車に乗ろうとしていた。彼の目的は何か。3人は、じっとみつめつづける。ルードビッヒは、あるオークションへむかおうとしていたのだ。そのオークションに何が待つのか。知る者は、彼、ルードビッヒと、彼の行動を非難する総統フューラー。ルードビッヒの過去は「ウラシマン」のドラマ上どんな意味を持っているのか？

POINT

ジョセフィーヌが美しい。ルードビッヒの表情が美しい。「キャラを合わすのに苦労してしまいました」というなかむら作監を加え、ウラシマン作画陣そろいぶみという回です。春・夏・秋・冬を描き、ルードビッヒの過去にくりひろげられる愛の思い出。謎を残し、不気味に笑う"悪魔のツボ"あぁ、純愛ロマン、ネクライム編なのだ。

▲ジョセフィーヌ（声・榊原良子）

14 ミャーにも超能力!?

STORY

満月の晩に、むさくるしさをもかもしだす、春のうかれネコたち。ミャーもまた、その一匹だった。かわいいメスネコにすりよるように近づくミャー。こんな、春になればあたり前のことから、この事件は始まっていたのである。

メカ分署に極秘情報が入った。犯罪帝国ネクライムの幹部一同が、サンセットストリートの地下ロコトで秘密会議を開いているというのだ。ついにネクライムの総統であるフューラーの正体がつかめるかも知れない。緊迫感の流れるなか、メカ分署の面々は出動する。しかし、情報がもれたというのか、サンセットストリートについたときには、ネクライムのネの字もなかった。メカ分署にスパイがいるのか!?

POINT

◀ミャーを誘惑したメス猫

主人であるリュウと、ほとんど性格がかわらないというミャー。そのミャーにもはたして超能力はあったのか。うっかりしていると、さもありそうに見えてしまうという回。もう、演出がニクイ。もっとハッキリしていれば、誤解なんかでてこないのに。しかし、そこがウラシマンの魅力のひとつ。ファンはテレビにむかい、一時も目がはなせない。こまった作品だ。

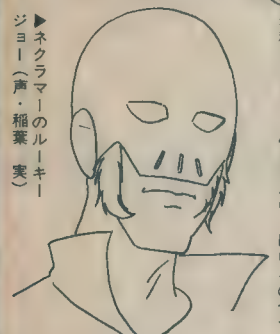
15 撮られたリュウの心

STORY

被写体の感情の動きを、とらえるマインド・モニター・ビデオ。それによって、ルードビッヒはリュウの心の動きを読みとりウラシマンの弱点をつかもうとしていた。そのころ、ネオトキオの各地でネクライムによる事件が起こる。出動するリュウにクロード。そして、彼らを追う謎の少女。

スティンガーウルフひきいる新人ネクライマーと戦うリュウ、クロード。必ずあらわれる少女。その裏にはやはり、ルードビッヒの計画があるのだろうか。すべてを不明のままにしてドラマは、新人ネクライマーのひとりジョーとリュウとの戦いにしぼられていく。遊覧船でくりひろげられる攻防。子供を人質にしたジョーに、なすすべのないリュウ。さて、どうなる。

POINT

貞光紳也さんの才能というのは、ウラシマンのチーフ・ディレクターの真下さんが、「一度、頭の中をみてみたい」と思っているぐらいすごい。この回における遊覧船と橋は、まさに貞光絵コンテのリズムそのものがいかされていた。ジャーナリストの少女や、タクシーの運転手、ラストのジタンダ対リュウと、みどころいっぱいなのです。

▶ネクラマーのルーキージョー（声・稲葉　実）

16 殺し屋グッドラック

STORY

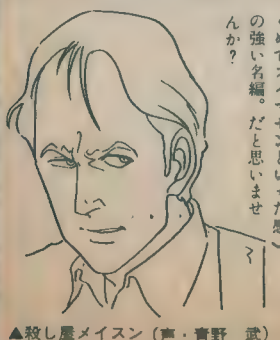
ルガーのメイスン。旧式の銃を駆使して殺しをうけおう殺し屋。殺人件数99、未遂で終わることなし、逮捕歴なし、プロ中のプロ。そのメイスンが、ネオトキオにあらわれた。目的は――。メカ分署の面々も五里霧中のなかで捜査を開始する。一方、メイスンに近づく影があった。ネクライムのジタンダ。メイスンを呼んだのは、ルードビッヒだったのだ。その目的は、ウラシマンこと、ウラシマ・リュウを消すこと。そうとは知らぬリュウは、いつもと変わらぬひょうきんさで気楽に捜査をしていた。そのリュウに迫まるルガーの銃口。リュウが、最大の危機をむかえた。行け！ ウラシマン。「キャイーン、哀愁ただよいの感じですことぉ」。

POINT

加藤茂作監と古川康順演出が「これだ！」という作品にめぐりあい、乗りまくったとしか思えない作品。青野武さん演ずるところの殺し屋・メイスンがシブイ。とってもいい。エアーバイクでの追っかけもいいし、夕日の中で、ついに対決するリュウとメイスンの表情もバツグンにいい。いいとこずくめでスイマセンといった感の強い名編。だと思いませんか？

▲殺し屋メイスン（声・青野　武）

Director Interview

林 政行

はやし・まさゆき　昭和19年[illegible]生まれ。演出家りん・たろう（林　重行）の実弟。「8マン」の動画、「鉄腕アトム」の作画をへて、「わんぱく探偵団」で演出デビュー　「樫の木モック」より竜の子作品に参加

「ウラシマン」演出グループ最年長の大ベテラン。「ウラシマン」の前番組「ダッシュ勝平」では、チーフ・ディレクターを担当。「ウラシマン」は、9話「昨日の友は今日の敵」より参加、17話「愛！ロボットに愛！」、24話「デスゲーム一発勝負」の脚本、絵コンテを担当している。

林監督は、「鉄腕アトム」「ジャングル大帝」「佐武と市」「樫の木モック」「新造人間キャシャーン」と、アクションばかりでなくメルヘンやギャグものも手がけている。

※

——さまざまなジャンルの作品を手がけていらっしゃいますね？

「ひとつのものをやると、その作品で得たものを、違う作品で違った角度からやってみたいと思うんです。絵としてはリアルなもの、ドラマとしてはメルヘンやマンガ的なものが好きですね。」

——「ウラシマン」には9話からの参加ですね？

「『ダッシュ勝平』の最終回を終えて、少し休んだ後、参加したんです。『ウラシマン』は若手のスタッフが集まっていましたし、違ったものを若手から吸収できるのではないかな、と思ったんです」

——「ウラシマン」を演出するときのポイントは？

「そうですね、『ダッシュ勝平』のときには、ギャグが中心でしたし、『ウラシマン』ではシリアスがやってみたいなと思いまして、基本的にはドラマを見せていく方向で、リュウやクロードの個々の性格をきちっと統一して見せていきたいなと思っています。『ウラシマン』は、ある一定のルールを守れば、演出家が楽しんで話作りや場面展開がかなり自由にできる作品といえますね。ぼくの場合にはあらかじめシナリオを読ませていただいて、なるべく違うプロットのものを真下監督と相談してやらせていただいています」

——24話の脚本家、高野太は、林監督だとお聞きしたのですが？

「ええ、そうです。シナリオでは人工衛星ルーレットみたいなプロットでしたので、真下監督と話あって、やるんだったら、もっと徹底的にやりたいと思いまして。おそらく1本目だったらできなかったでしょうね。各演出家のものを何本か見ている内に、もっともっとおもしろいことができるんじゃないかな、みたいなところでの発想なんですけどね。実際にシナリオを書いたのではなく、あくまでも絵コンテを書いてから、本読みという形になっているんです」

▶なかむらたかし作画によるミレーヌのキャラクター設定より。

17 愛！ロボットに愛！

STORY

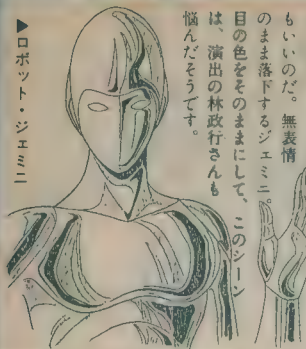
巨大なゴリラに追われる夢をみて飛びおきたリュウを待っていたのは、事件の知らせだった。ニューエネルギー研究所から、ミュー1号という新エネルギー電池が盗まれたのだ。人間の致死量をはるかに越える量のミュー放射線にも平気な犯人は？ 防犯カメラがとらえた姿は人間に見える。しかし、分析の結果ロボットの仕業と判明。リュウとクロードが調査中にあった美人博士エリーが造った〝ジェミニ〟であることがわかる。やはり、裏にはネクライムが——。ロボットに愛は通じるか！ たまには真面目なテーマに取り組んで戦うというウラシマン。改造により巨大化したジェミニに、愛は本当に通じるかの。がんばれ！ ウラシマン。

POINT

ロボットだ、巨大ロボットだ。しかし、これはゴールドライタンではありません。美人博士エリーもさることながら、涙するソフィアの表情にファンは思わず胸キュンの回。ロボット・ジェミニに捕ったリュウを救おうとするメカ分署の面々、クロードも、権藤も、ミャーもいいのだ。無表情のまま落下するジェミニ。目の色をそのままにして、このシーンは、演出の林政行さんも悩んだそうです。

▶ロボット・ジェミニ

18 ガラスに書いた「ママ」

STORY

極秘ファイルが、つぎつぎと盗まれる。メカ分署にも、そのファイルの中味が明されないままに調査が進んでいく。手がかりのつかめぬままに、時間はすぎる。密室から、いかにしてファイルを持ち去ったのだろうか。謎を深めるリュウの前に、母の香りを持った女性があらわれる。「あなたは、わたしのお母さんでしょ！」リュウは捜査そっちのけで、その女性を追う。女性が住むビルのむかいのネオトキオ中央郵便局シークレット郵便部のビルの窓に「MAMA」とらくがきしてしまうリュウ。本当に女性はお母さんなのか？ 窓のらくがきが事件解決の手がかりになるという、ウラシマン母恋詩・ネオトキオ慕情編。リュウの頬にむかしがよみがえる。

POINT

「ウラシマン」の音楽というのは、人気があるようでLPも近々、第2弾がでるという。この回は、音楽に乗せてコミカルに踊るシーンに注目。リズムに乗って踊るあのシーンをみるたびに、「作画のみなさまごくろうさまでした」と頭を下げるのみです。撮影のかたも大変だったでしょうね。スタッフ全員の苦労に思わず、礼っ！

▲リュウの母に似た女性リリー（声・前田敏子）

19 ティファニーで人魚

STORY

世界最大のブルーダイヤでできた〝嘆きの人魚〟が、ティファニー宝石店に展示されていた。さっそく観にきたリュウ、クロード、ソフィア。3人は、そこでクロードの昔の同僚アレックに会う。アレックは、自ら警備会社をつくり運営する、若き実業家。彼は、この宝石の警備にあたっていたのである。

〝嘆きの人魚〟を観た帰り、3人は自殺しようとしていた、ブルーノという宝石デザイナーにでくわし、展示されている〝嘆きの人魚〟がにせものであるときかされる。そして、ここにメカ分署初の泥棒のマネごとが開始される。アレックを引きつけるソフィア。展示場に忍びこむクロードとリュウ。しかし、そこにはワナが待っていた。

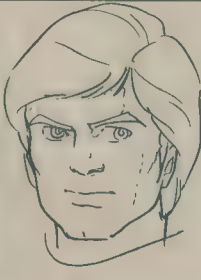
POINT

「まぁ、こちら社長さんなの？」「可愛いお嬢さん——、今晩おヒマですか？」「ヒマだらけです」「よかったら今晩お食事でも？」「ええよろこんで、キャイン、キャイン、キャイン♥」

この回冒頭にして、最高の会話である。会話の主はソフィアと、この回のゲスト・アレック。朝日をバックにでてくるスティンガー部隊、泥棒をしにいくリュウたちとかみどころもいっぱいなのです。

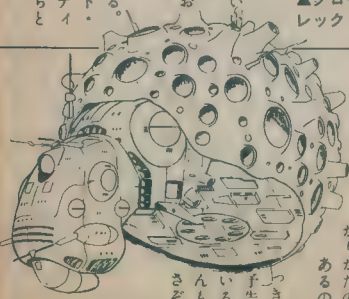
▲クロードの旧友アレック（声・森 功至）

20 フューラーとの遭遇

STORY

ネクライムを一代で築いた総統フューラーが、あせっている。マッドサイエンティストQに「PROJECT 389」を自ら実行するというのだ。ついにフューラーがウラシマンの前にあらわれようとしている。その頃リュウは、パトロール中をルードビッヒらに襲われワナにおちいっていた。ルードビッヒが、リュウのマグナビートルの銃口をリュウ自身にむける。その時リュウを包むバリヤー、上空にネクライムサテライト本部シーケイドが——。ついに姿をあらわすフューラー。ウラシマンとフューラーの秘密の一部が明かされようとしている。そして、「PROJECT 389」とは——。リュウは無事脱出なるか、急げクロード、ソフィア！

POINT

超ド迫力の井口忠一作監が、リュウとフューラーの遭遇というシリーズ前半の山場話をこれでもかと盛りあげてくれました。細かいところでは、チェスキューの飛び上がりかたの自然さとかあるのですが、とにかく見るっきゃない一編。予告を演出している田中宏之さんも、この回はさぞ力が——。

▲ネクライムのサテライト本部シーケイド号。

Producer Interview
田村常夫

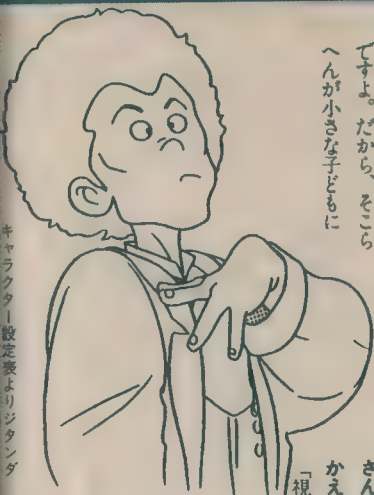
たむら・つねお　昭和27年12月28日生まれ　竜の子所属。「一発貫太くん」から進行をつとめ「科学忍者隊ガッチャマンII・F」などをへて「ウラシマン」で制作プロデューサー

「『ウラシマン』は楽しく見ようよ。っていうのが本音ですね」と語る田村制作プロデューサー。いま、「ウラシマン」を語る。

「ウラシマン」スタッフ・チームの仕掛人かも知れない田村さんと真下さんは、同い歳なんです。それがチームワークのよさの秘密。

「制作の立場で何がやりたいかという部分と、CDの立場の真下氏の何がやりたいかという部分が合致したとき『ウラシマン』が始まったといえますね。で、そこから狙い目がでて、それを発揮するためのチームづくりが、いまの形を生んだんです」

物語についても熱っぽく語ってくれました。

「ネオトキオという竜宮城で、ウラシマ・リュウはいったい何をしようというのか。真下氏もボクも『ウラシマン』での狙いどころは〝人間愛〟なんですよ。だから、そこらへんが小さな子どもにも受け入れられて、商業的にも視聴率的にもクリアーするラインをとらなくてはいけない。ボクは、それをやりやすいように真下氏にセッティングしてやる仕事なんですよ。これまでが、キレイにセッティングしてこれたのかわかりませんが、番組が終わったときに結論はでなくてもいいと思ってます。ただ『ウラシマン』やってよかったぁ——って声がスタッフの中からひとりでもいいからでてきてくれたらよしとしようと思っているんです」

ファンの手紙をうれしそうに読んでいた田村さん。制作もいよいよ4クール目の展開をむかえつつあるのだ。

「視聴者を、いい意味でだませるかということ、もうネオトキオという竜宮城はみたわけだから『ウラシマン』をどうしてあげたいとかいう気持ちを持っていると思うわけです。つまり、ウラシマ・リュウは市民権を得たわけでしょ、これからですよね」

チームワークがバッグンの「ウラシマン」チーム。応援よろしく。(衛)

キャラクター設定表よりジタンダ

キャラクター設定表よりスティンガー部隊

未来警察ウラシマン・スタッフ

製作／吉田健二　企画／岡正・内間稔・九里一平　原作／タツノコプロ企画室　原案・構成／曽田博久　キャラクター・デザイン／なかむらたかし・井口忠一・加藤茂　メカニック・デザイン／大河原邦男　技術監修／宮本貞雄　音楽／風戸慎介　美術監督／宮前光春　撮影監督／佐藤均　制作プロデューサー／田村常夫　制作担当／由井正俊　プロデューサー／前田和也・井上明・大野実　チーフ・ディレクター／真下耕一

21 入れかわった性格！

STORY

フューラーと何があったのかを思い出せないリュウは、メカ分署の仲間からヤジられる。一方、それをみていたはずのジタンダも、そのときのことを何ひとつ思い出せずルードビッヒに責められていた。

記憶を呼びもどすべくリュウは、ネオトキオ医大の精神分析医ドクター・ノグチをたずねる。また同じとき、ジタンダもノグチをたずねていた。奇しくも、同じ機械にかけられるふたり。ミャーのちょっとしたイタズラで、爆発してしまうカプセル。そのショックによりふたりは人格が入れかわってしまった。メカ分署で、ネクライムで、入れかわったふたりがおこす大騒動。リュウとジタンダの運命やいかに——。エライこってすよぉ。

POINT

全編これ、逆説世界。もし人格が入れかわったらというパターン。そのギセイ者がリュウとジタンダのふたり。前回からの引きの形がニクイのだ。しかし、ジタンダとなったリュウが、ふだんの数倍かっこよかったのはなぜだろうか。疑問が残るなあ。とはいえ、バランスがくずれた世界に拡がる一種のパラレルワールド。お・おもしろおかしすぎる。

◀ドクター・ノグチ（声・松岡文雄）

22 涙！権藤警部の決意

STORY

メカ分署に見習いがやってきた。名はキャロル。権藤の友人であり、ネオトキオ警察庁総監の娘である。が、クロードでさえ手をやくギャルで、リュウとソフィアはもうお手あげの状況。そんなとき、マグナポリス38を奪おうと考えたネクライムは、パトロール中のキャロルを人質にとり、マグナポリス38のマスターキーと交換しようといってきた。権藤は、刑事時代にスティンガーウルフによってラチされた娘を殺されたことを思い、ただひとり、指定された場所へむかう。が、いまやメカ分署は仲間を越え家族の意識。リュウ、ソフィア、クロードがおとなしく待っているはずがない。マグナポリス38とキャロルの生命、ふたつとも守り抜けるか？　ただ、感動の一編。

POINT

▲キャロル（声・戸田恵子）

権藤にかくされた過去。この回はまじにみたい。しかし、権藤の娘の名が「メルモ」というのには負けた。イージーなイメージだ。でも、この回はまじにみなくてはいけない。口笛を吹きながら、霧の中にあらわれるバトル・プロテクター姿のリュウに「ムテキ——ング」とさけんではいけない。まじに、まじにみようね。

23 戦利品に手を出すな！

STORY

エアパト304が、ネクライムによる一連の科学者誘拐事件に関係があるらしい小型機を追跡していた。しかし、事故のため追跡不能となり、メカ分署に連絡が入る。メカ分署は、さっそくアイポットを飛ばし機を追ったが、謎の小島に近づいたときに爆破されてしまった。そして、島を調査すべくリュウとクロードがむかった。小道具を駆使して潜入に成功するふたり。しかし、それはモニターによってルードビッヒたちの知るところとなっていた。"事故"としてウラシマンを始末しようとするルードビッヒ。そうとは知らずに、秘密基地内部の奥へ進んでいくリュウとクロード。

ふたりは誘拐された博士たちを救出することができるだろうか！

POINT

動画がなんと8000枚。アニメって動画枚数なんか、本当は二のつぎなんだけど思わずビックリ。制作担当の某氏もビックリしたらしいが、とにかくスゴイ。動きのよさと演出のテンポのよい運びを、十分に楽しんでいただきたい回です。ウラシマンのよさは、スタッフ全員の乗りだ。それが、バッグンのチームワークで行われているといえよう。ファンにこたえるスタッフの乗りの証明の1編である。

24 デスゲーム一発勝負

STORY

メカ分署内では、トランプの勝敗によって居残りを決める一発勝負が行われていた。残ったのは権藤とリュウ。ふたりの間に緊張の糸がはりめぐらされる。が、あっさりと勝ったリュウは、ソフィア、クロードと共にディスコへくりだす。3人は、休息の時間になぜか刺激を求めていた。そこへ美女のさそいが——。それが、ルードビッヒのデスゲームへの招待とも知らず、さそいに乗ってしまう3人。海中深くの、遺跡の中に造られた建物。3人が潜水艦をおりるとそこには、ネクライムのルードビッヒを始めとする大部隊が——。

ついにその手腕によるショミの部分が、巨大悪を象徴していくルードビッヒ。ウラシマンはこの勝負に勝利できるか!?

POINT

古い番組でスイマセンが、思わず「アベンジャー」かと思ってしまいました。アクションにつぐアクションが、ベテラン林絵コンテと新人・田中宏之演出で見事に展開されていく。作画の盛りあがりは、ソフィアのむかえうつチェスのコマのシーン。ソフィアのダイナミックなアクションシーンにしびれてください。

（ストーリー&ポイント　街田勝二）

▶スティンガー・キャットの変装したディスコ・ギャル

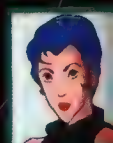
Filmography episode 1~26

No	放送日	タイトル	脚本	絵コンテ・演出	キャラクター・デザイン 原画作監	原画
1	1/9	突然！2050年	曽田博久	真下耕一	加藤 茂	加藤 茂，河口俊夫
2	1/16	誕生！ブリッコ刑事(デカ)	曽田博久	貞光紳也	アベ正己	長崎重信，野嶋めぐみ，香川 浩
3	1/23	失なわれた時を求めて	曽田博久	真下耕一 澤井幸次	井口忠一	井口忠一
4	1/30	追いかけてビートル	山崎晴哉	貞光紳也 石山貴明	水村十司	西城隆詞，谷口守泰，中村 清 川口弘明
5	2/6	危険なディスコ女王(クイーン)	寺田憲史	古川順康	河合静男	橋本とよ子，沢田早苗，浜崎博嗣 前田真澄，長峰節子
6	2/13	巨大ザメは美女好き	山崎晴哉	貞光紳也	福岡 元 鄭 雨英	鄭 雨英
7	2/20	札束でひっぱたけ！	曽田博久	澤井幸次	田辺由憲	田辺由憲，河口俊夫，片瀬美恵子 野口めぐみ
8	2/27	月の足跡は80才？	富田祐弘	石山たか明	西城隆詞	水村十司，谷口守泰，中村 清 川口弘明，永瀬睦子，コクピット
9	3/6	昨日の友は今日の敵	寺田憲史	林 政行	加藤 茂	加藤 茂，香川 浩
10	3/13	エベレストより高く	富田祐弘	古川順康	井口忠一	井口 忠一，河口俊夫
11	3/20	挑発！南の島に吹雪	山崎晴哉	石山たか明	高田明美 鄭 雨英	鄭 雨英
12	3/27	空飛ぶ真っ赤な天使	土屋斗紀雄	貞光紳也	河合静男	橋本とよ子，沢田早苗，浜崎博嗣 前田真澄，長峰節子
13	4/2	過去にささったトゲ	寺田憲史	真下耕一	なかむらたかし	なかむらたかし，兵頭 敬 スタジオＯＺ
14	4/9	ミャーにも超能力!?	佐藤ゆき	澤井幸次	福岡 元 鄭 雨英	鄭 雨英
15	4/16	撮られたリュウの心	寺田憲史	貞光紳也	河合静男	アニメアール，兵頭 敬，浜崎博嗣 橋本とよ子，沢田早苗
16	4/23	殺し屋グッドラック	寺田憲史	古川順康	加藤 茂	加藤 茂，香川 浩，片瀬美恵子 野島めぐみ，千明孝一
17	4/30	愛！ロボットに愛！	土屋斗紀雄	林 政行	河合静男	橋本とよ子，沢田早苗，浜崎博嗣，前 田真澄，水村良男，飯田史雄，樫村順子
18	5/7	ガラスに書いた「ママ」	井上敏樹	石山タカ明	田辺由憲	田辺由憲，広田麻由美 星川信芳，河口俊夫
19	5/14	ティファニーで人魚	山崎晴哉	貞光紳也	福岡 元 鄭 雨英	鄭 雨英
20	5/21	フューラーとの遭遇	曽田博久	真下耕一	井口忠一	井口忠一
21	5/28	入れかわった性格！	曽田博久	澤井幸次	福岡 元 河合静男	星川信芳，河口俊夫，篠田 章 香川 浩，タツノコ研究所
22	6/4	涙！権藤警部の決意	寺田憲史	石山タカ明	高田明美 鄭 雨英	鄭 雨英
23	6/11	戦利品に手を出すな！	富田祐弘	古川順康	加藤 茂	加藤 茂，田辺由憲，星川信芳 野島めぐみ，千明孝一，香川 浩
24	6/18	デスゲーム一発勝負	高野 太	林 政行 田中宏之	河合静男	橋本とよ子，沢田早苗，浜崎博嗣，前 田真澄，水村良男，飯田史雄，樫村順子
25	6/25	伝説のビッグ サタデー	寺田憲史	貞光紳也	鄭 雨英	鄭 雨英
26	7/2	ネオトキオ発地獄行き	山崎晴哉	なかむらたかし 古川順康	なかむらたかし	

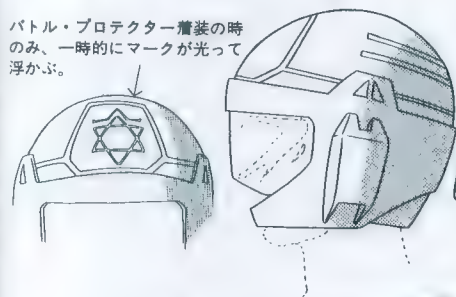
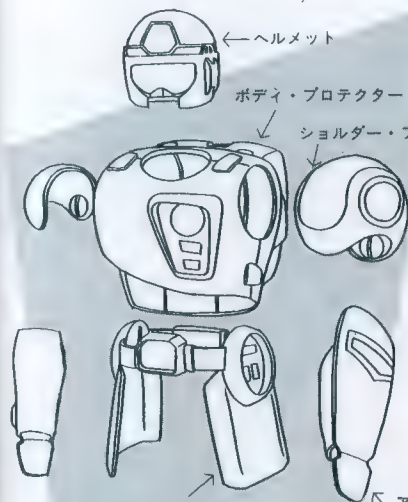
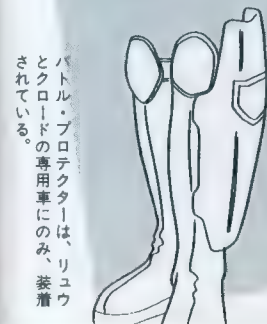
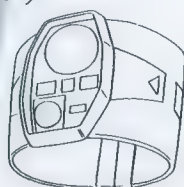
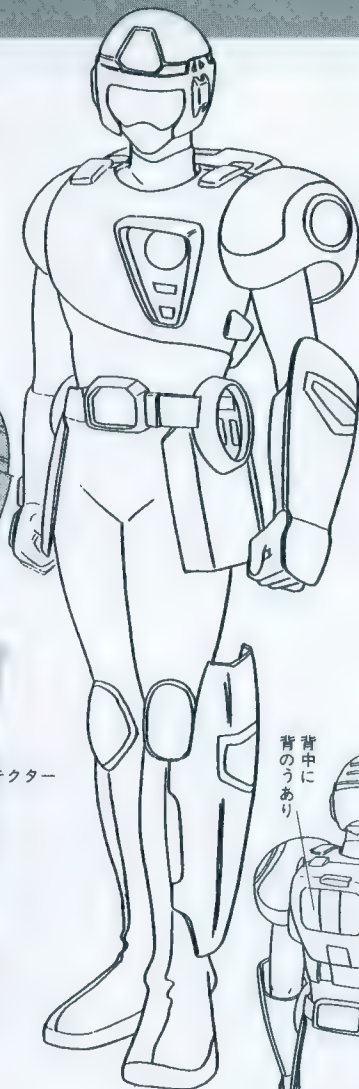
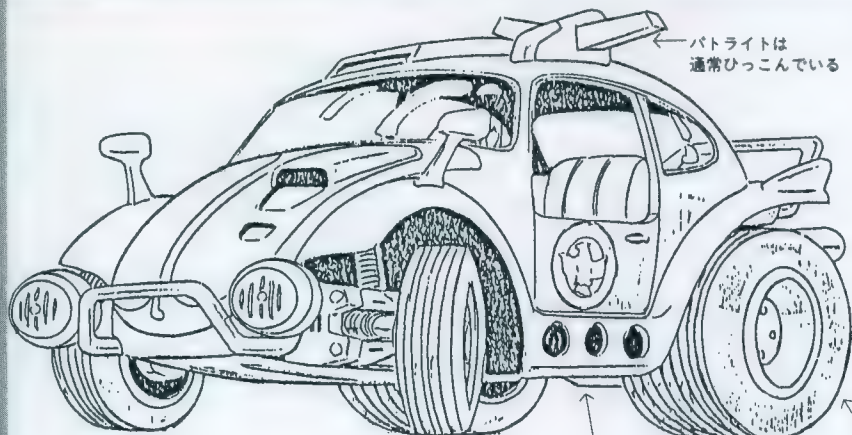
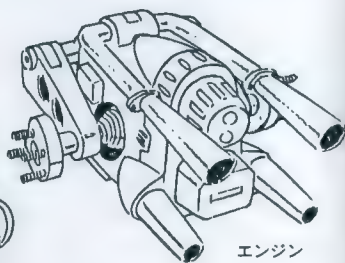
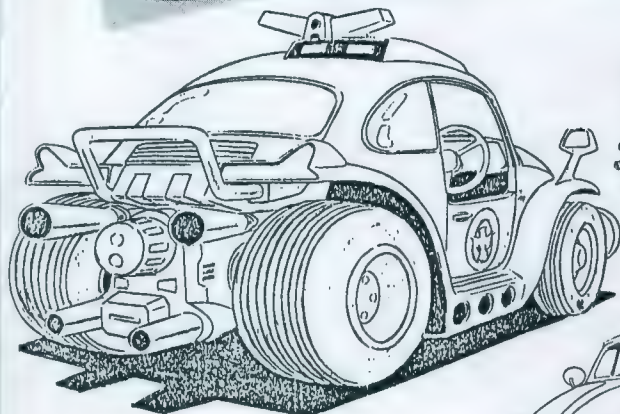
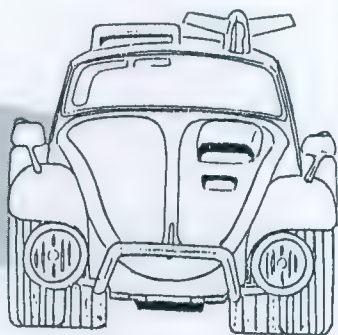
CONTENTS

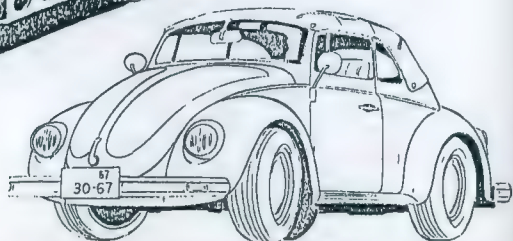
表紙のことば

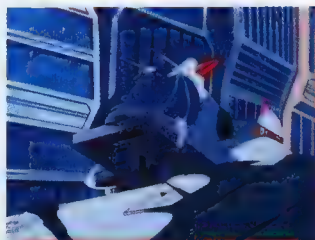
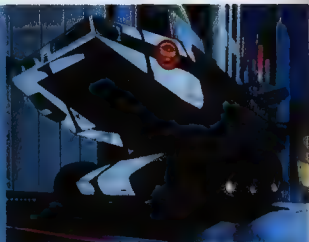
2クールを終えて、折り返し地点にきた「未来警察ウラシマン」。この別冊は、陰ながらの応援を込めて作りました。(編集部)

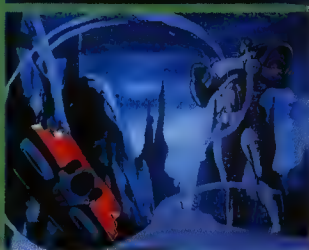
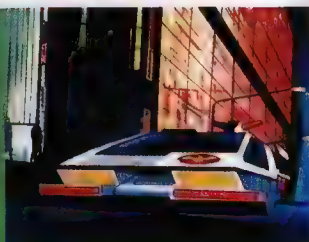
STAFF
構成●徳木吉春・街田勝二
表紙レイアウト●真野薫
本文レイアウト●庄内真
表紙原画●なかむらたかし
セル・ワーク●STUDIO 2001

COMING NOW
THE URASHIMAN

バトル・プロテクター

マグナ・ビートルのドライバーズ・シートが変形して、バトルプロテクターという「未来の防弾チョッキ」になる。あくまでも「防弾チョッキ」なので、攻撃装置はついていない。
　身体の左側を重点的にガードして、右側はなるべく自由に動かせるよう設定されている。
　したがって、敵に身体の左側を向ければ、体のほとんどをガードすることが可能。
　多重金属膜のラミネート構造で、様々なLSI回路がサンドイッチになっている。（設定シートより）

マグナ・ビートル

改造前のワーゲン

リュウ専用の特殊改造車。初期設定名はワーゲン・スクラッパー。特殊エンジンをチューンナップして、スーパーチャージャーを作動させると最高時速250km／hまで出せる。通常は、100km／hぐらいで走行する。

MAGNA BEETLE

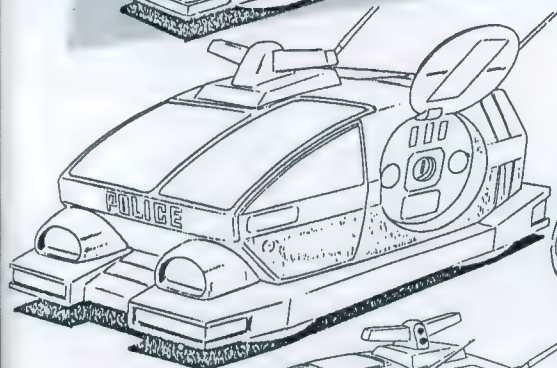
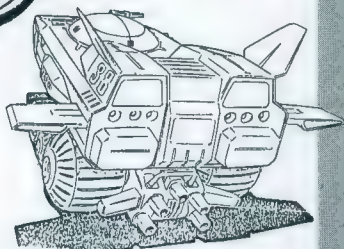
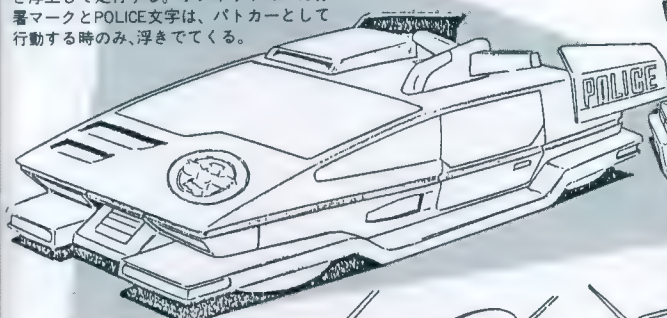
MAGNA POLICE 38

CHASECUE

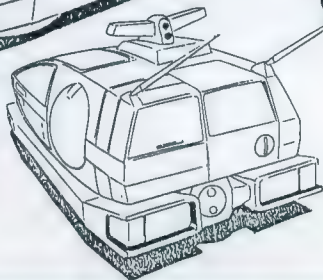
SPOILER

マグナポリス38

機動メカ分署の移動基地。重量は50トン全長23m。車高8 5m。最高時速は40km/hで、無人のTVモニター・メカ、アイ・ポットを発射する。

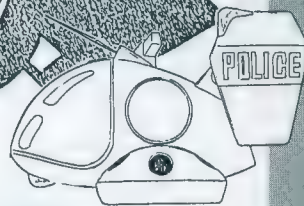
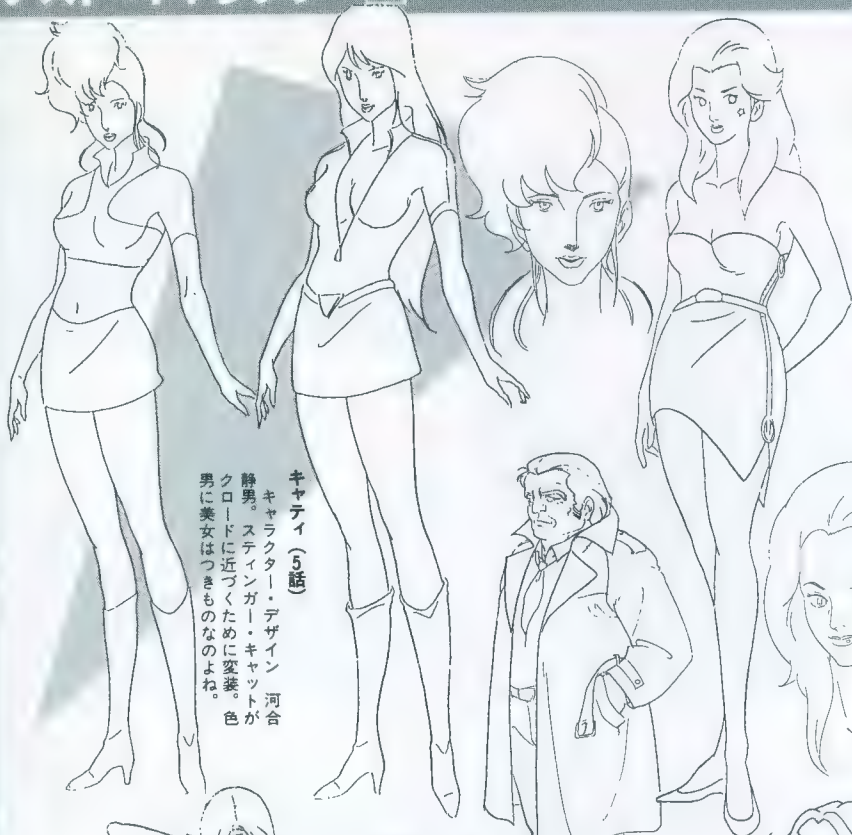
アイ・ポット発射口
チェスキュー発進ドーム
メイン緊急ランプ
サーチライト
ヘッドコクピット

スポイラー

クロード専用インセプター。パトカー時最高時速250km/hで、地面から20～30cmほど浮上して走行する。ボンネットのメカ分署マークとPOLICE文字は、パトカーとして行動する時のみ、浮きでてくる。

アカデミア

ソフィアの科学捜査ビークル。最高時速は120km/hぐらいで通常は40km/hぐらいで走行する。パトライトやPOLICE文字は、常に現われている。

チェスキュー

一人乗りの緊急用メカ。エアカーではなくターボ・フィン・ヘリ。左右のフィンの穴から空気を入れて、下に吹き出して走行する。最高時速は350km/h、主にソフィアが乗用。

ゲスト・キャラクター1

クロードのガールフレンド（1話ほか）
キャラクター・デザイン　加藤茂。未来のパーキー・ギャル。第4話では、クロードと一緒にファッション・ショーを観ていた。

キャティ（5話）
キャラクター・デザイン　河合静男。スティンガー・キャットがクロードに近づくために変装。色男に美女はつきものなのよね。

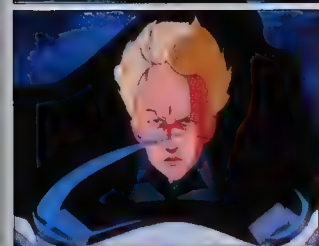
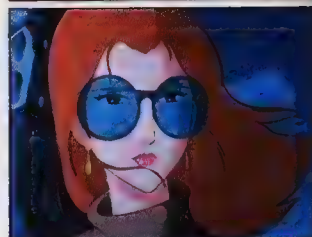
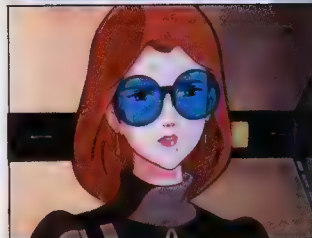
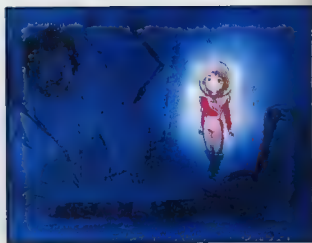
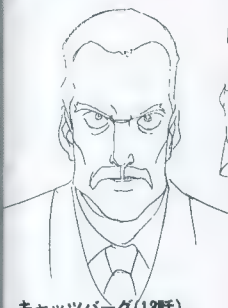
コロンダ刑事（11話）
キャラクター・デザイン　高田明美。ネクライムを秘そかに探っていた敏腕刑事（？）。内海賢二さん大熱演♡

ヒッチハイク・ギャル（12話）
キャラクター・デザイン　河合静男。ネクライマー・ギャル。クロードを狙った美女である。色男は、うらやましい。

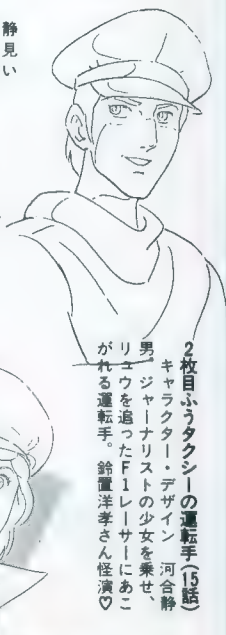
サメに襲われた美女（6話）
キャラクター・デザイン　福岡元。スティンガー・シャークのシユミで捕まった美女。

未来の美女（11話）
キャラクター・デザイン　高田明美。「うる星」や「クリィミー・マミ」で活躍の高田美女。

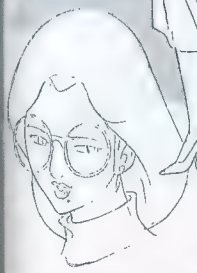
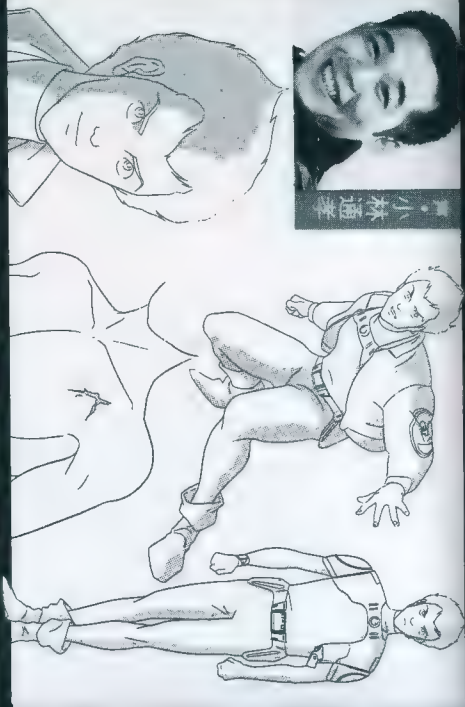
女の子（7話）
キャラクター・デザイン　田辺由憲。シーン13に、チラッとでてきた女の子。遊び心がうれしいですね。

Girl
Mason

Eliy

ジョセフィーヌ(13話)
キャラクター・デザイン　なかむらたかし。ルードビッヒが、心を寄せた女性。榊原良子さんの声が、魅力を倍増していた♡

キャッツバーグ(13話)
キャラクター・デザイン　なかむらたかし。ジョセフィーヌの父親。悪魔のツボの魔力か、キャッツバーグ家は謎を残し、消えた…。

小さな女の子(15話)
キャラクター・デザイン　河合静男。設定には「パンツ、チラッと見えます。ホッペは色トレス」と書いてありました。河合作監の時は、女の子に注目。

エリー(17話)
キャラクター・デザイン　河合静男。ロボット・ジェミニの製作者。美人博士の登場に、思わずキャインしてしまった。

2枚目ふうタクシーの運転手(15話)
キャラクター・デザイン　河合静男。ジャーナリストの少女を乗せ、リュウを追ったF1レーサーにあこがれる運転手。鈴置洋孝さん怪演♡

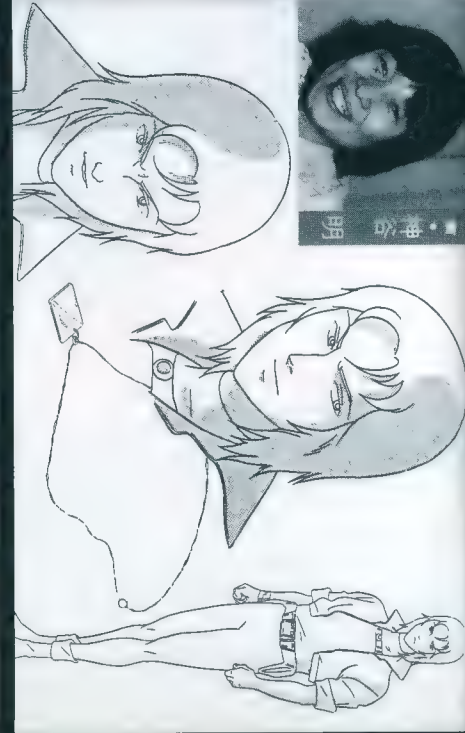
メイスン(16話)
キャラクター・デザイン　加藤茂。リュウをねらった殺し屋。青野武さんの声がピッタリ合って、物語をおもしろくしてくれた。

ジャーナリストの少女(15話)
キャラクター・デザイン　河合静男。設定に「まぶたはひとえです。なるべく丸っこいかわゆい目にして下さい」と書いてあります。

ウラシマ・リュウ(16歳)

1983年から2050年にタイムスリップしてしまった少年。そのショックで本名も過去も思い出せない。未来世界では、ウラシマ・リュウと名乗る。身長165cm。左の胸に、過去の弾傷(らしきもの？)がある。基本的にはきわめてハッピーな精神の持ち主。

声・小林通孝

ミャー

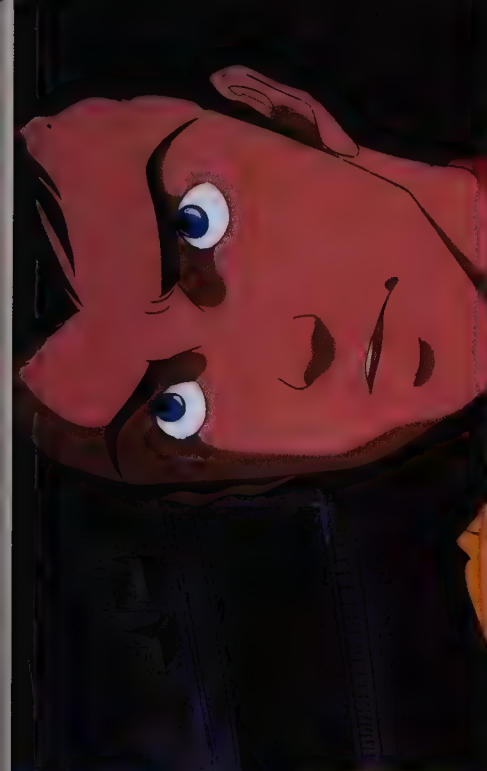
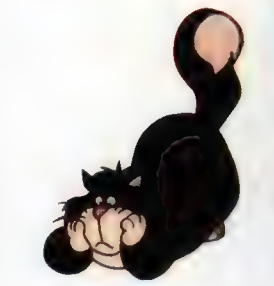
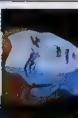
主人のリュウと一緒に、タイムスリップして未来にやってきたネコ。タイム・スリップした時の影響で、超能力を身につけたと思われるが、リュウ同様、その真意は明らかではない。

クロード(18歳)

キザでクールな若者。メカに強く、情勢判断も鋭い。だが、実はそのクールなイメージもリュウを意識してのものである。物事を斜に構えて見る傾向があり、ストレートに見ることはしない。身長177cm。ペンダントを肌身はなさず身につけている。

ジタンダ(16歳)

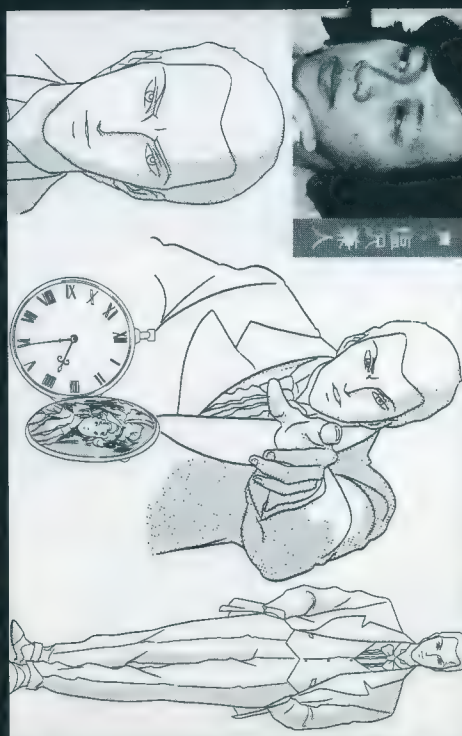
ミレーヌの相棒の小男。いつもミレーヌやルードビッヒにこきつかわれている一見ドジな小悪党。しかし、すごい怪力の持ち主で見かけによらぬスーパー格闘技を身につけている。身長105cm。

権藤警部

上層部からある特命をうけて、機動刑事課を創設した人物。いつもシケモクをくわえ、2050年代の人物にもかかわらず、まるで1960年代のサラリーマンのような姿をしている変わり者。身長157cm。

ソフィア(16歳)

とにかく世間知らずで、世の中には〝腹の底から悪い人間〟なんかいないと信じている女の子。以前は神を信じる身であったので、どうもそのクセが抜けきらず、悪人を憎むことができない。身長158cm。ペンギンのマスコットを十字架がわりに愛用している。

ルードビッヒ(26歳)

フューラー直属の部下。貴公子然としてはいるが、顔と頭の中身はこの男にかぎっては一致しない。その超悪党ぶりをフューラーに買われて、ネクライム組織の知恵袋、企画立案者になるが、ラスト近くでは次期総統を志すほどの実力の持ち主となる。身長180cm。

ミレーヌ(?歳)

フューラー直属の部下。あまりペラペラしゃべることなく、シャムネコのように一見何を考えているかわからず、神秘的な面がある。全体的にアンニュイ感がただよう美女。身長168cm。

原画／なかむらたかし

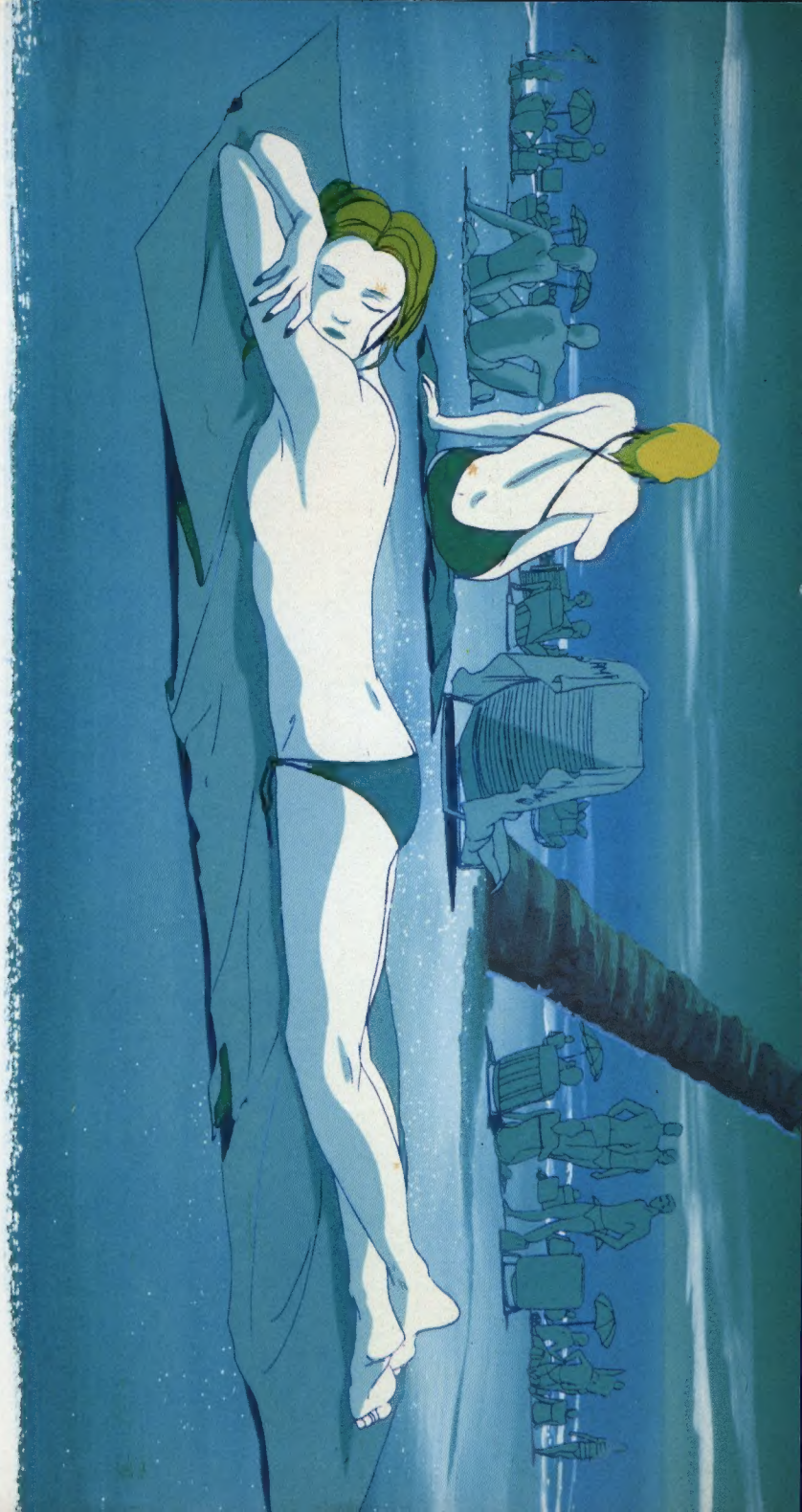



IMAGE COLOR BOARD

by Takashi Nakamura

by Shigeru Kato

昭和58年8月10日発行（毎月1回10日発行）第6巻第8号　昭和57年6月15日国鉄首都特別扱承認雑誌第6262号